

2007年3月の地震活動の評価

1. 主な地震活動

3月25日に能登半島西岸付近の深さ約10kmでマグニチュード(M)6.9の地震*が発生した。この地震により石川県で最大震度6強を観測し、死者1名と負傷者約300名などの被害を生じた。また、この地震に伴う余震活動により、25日にM5.3(最大震度5弱)、26日にM4.8(最大震度5弱)、28日にM4.9(最大震度5弱)の地震が発生した。

* : 今回の地震に対し、気象庁は「平成19年(2007年)能登半島地震」と命名した。

2. 各地方別の地震活動

(1) 北海道地方

- 3月30日に国後島付近の深さ約100kmでM5.6の地震が発生した。発震機構は西北西—東南東方向に圧力軸を持つ型であり、太平洋プレート内部の地震である。
- 3月11日に北海道東方沖の深さ約15kmでM5.6の地震が発生した。発震機構は北西—南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、平成6年(1994年)北海道東方沖地震の余震域内で発生した。
- 3月18日に十勝沖の深さ約60kmでM5.6の地震が発生した。発震機構は西北西—東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、太平洋プレートと陸のプレートの境界付近で発生した地震である。この地震は平成15年(2003年)十勝沖地震の余震域内で発生した。
- 3月30日に十勝支庁南部の深さ約45kmでM4.7の地震が発生した。発震機構は北西—南東方向に圧力軸を持つ型であり、太平洋プレートと陸のプレートの境界付近で発生した地震である。

(2) 東北地方

- 3月31日に宮城県沖〔宮城県北部〕の深さ約75kmでM4.8の地震が発生した。発震機構は太平洋プレートの沈み込む方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、太平洋プレート内部の地震である。この地震は2003年5月26日に発生した宮城県沖の地震(M7.1)の余震域内で発生した。
- 3月7日に秋田県内陸北部の深さ約15kmでM4.2の地震が発生した。

(3) 関東・中部地方

- 3月22日に埼玉・千葉県境付近〔埼玉県南部〕の深さ約80kmでM4.2の地震が発生した。
- 3月10日に新潟県中越地方の深さ約10kmでM4.0の地震が発生した。この地震は平成16年(2004年)新潟県中越地震の余震域から南西に約20km離れた場所で発生した。
- 3月8日に鳥島近海の深さ約150kmでM6.0の地震が発生した。発震機構は東北東—西南西方方向に張力軸を持つ型であり、太平洋プレート内部で発生した地震である。
- (平成19年(2007年)能登半島地震およびその余震活動については別項を参照)
- 東海地方のG P S観測結果等には特段の変化は見られない。

(4) 近畿・中国・四国地方

- 目立った活動はなかった。

(5) 九州・沖縄地方

- 3月22日と23日に熊本県熊本地方の深さ約5kmでM4.0とM4.1の地震が発生した。

(6) その他の地域

- 3月9日に日本海北部の深さ約500kmでM6.2の深発地震が発生した。発震機構は太平洋プレートの沈み込む方向に圧力軸を持つ型であり、太平洋プレートの内部で発生した地震である。

補足

- 4月5日に仙台湾〔宮城県沖〕の深さ約10kmでM4.5の地震が発生した。発震機構は東北東一西南西方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、地殻内で発生した地震である。
- 4月10日に宮城県沖〔岩手県沿岸南部〕の深さ約75kmでM4.3の地震が発生した。

注：〔 〕内は気象庁が情報発表に用いた震央地域名である。

2007年3月の地震活動の評価についての補足説明

平成19年4月11日
地震調査委員会

1 主な地震活動について

2007年3月の日本およびその周辺域におけるマグニチュード(M)別の地震の発生状況は以下のとおり。

M4.0以上およびM5.0以上の地震の発生は、それぞれ125回(2月は67回)および16回(2月は10回)であった。また、M6.0以上の地震の発生は3回(2月は1回)であった。なお、上記の月回数のうち、能登半島地震の余震活動によるものは、M4.0以上、M5.0以上のそれぞれについて、30回、3回であった。

(参考) M4.0以上の月回数73回(1996-2005年の10年間の中央値)、
M5.0以上の月回数9回(1976-2005年の30年間の中央値)、
M6.0以上の月回数1.4回、年回数約17回(1926-2005年の80年間の平均値)

2006年3月以降2007年2月末までの間、主な地震活動として評価文に取り上げたものは次のものがあった。

- 日向灘 2006年3月27日 M5.5(深さ約35km)
- 伊豆半島東方沖 2006年4月21日 M5.8、4月30日 M4.5などの地震活動
- 大分県中部 2006年6月12日 M6.2(深さ約150km)
- 千島列島東方 2006年11月15日 M7.9
- 千島列島東方 2007年1月13日 M8.2

2 各地方別の地震活動

(1) 北海道地方

— 3月末頃から択捉島南東沖でM5.5(4月2日)を最大とする、小規模な地震活動が発生している。

(2) 東北地方

東北地方では特に補足する事項はない。

(3) 関東・中部地方

「東海地方のGPS観測結果等には特段の変化は見られない。」:

(なお、これは、3月26日に開催された地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会における見解(参考参照)と同様である。)

(参考)最近の東海地域とその周辺の地震・地殻活動(平成19年3月26日気象庁地震火山部)

「現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。」

全般的には顕著な地震活動はありません。浜名湖東方から静岡県中部の直下では通常より活動レベルの低い状態になっていますが、その他の地域では概ね平常レベルです。

東海地域及びその周辺の地殻変動には注目すべき特別な変化は観測されていません。」

(4) 近畿・中国・四国地方

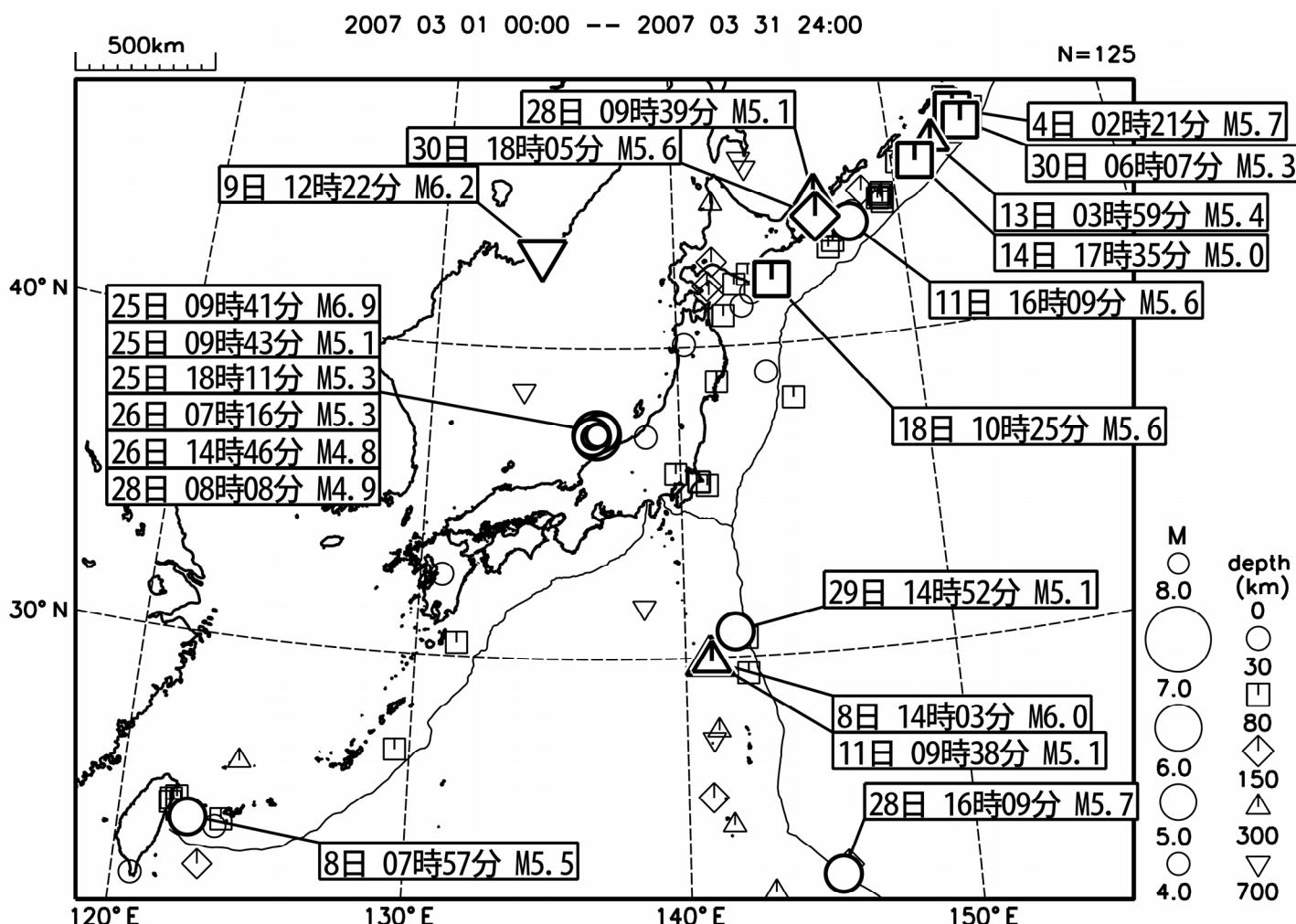
近畿・中国・四国地方では特に補足する事項はない。

(5) 九州・沖縄地方

「3月22日と23日に熊本県熊本地方の深さ約5kmでM4.0とM4.1の地震が発生した。」
これらの地震も含め、3日間程度、小規模ながらやや活発な地震活動があった。

参考 1	「地震活動の評価」において掲載する地震活動の目安 M6.0 以上のもの。または、M4.0 以上（海域では M5.0 以上）の地震で、かつ、最大震度が 3 以上のもの。
参考 2	「地震活動の評価についての補足説明」の記述の目安 1 「地震活動の評価」に記述された地震活動に係わる参考事項。 2 「主な地震活動」として記述された地震活動（一年程度以内）に関連する活動。 3 評価作業をしたものの、活動が顕著でなく、かつ、通常の活動の範囲内であることから、「地震活動の評価」に記述しなかった活動の状況。

2007年3月の全国の地震活動 (マグニチュード4.0以上)



鳥島近海で3月8日にM6.0の地震があった。

日本海北部で3月9日にM6.2の地震があった。

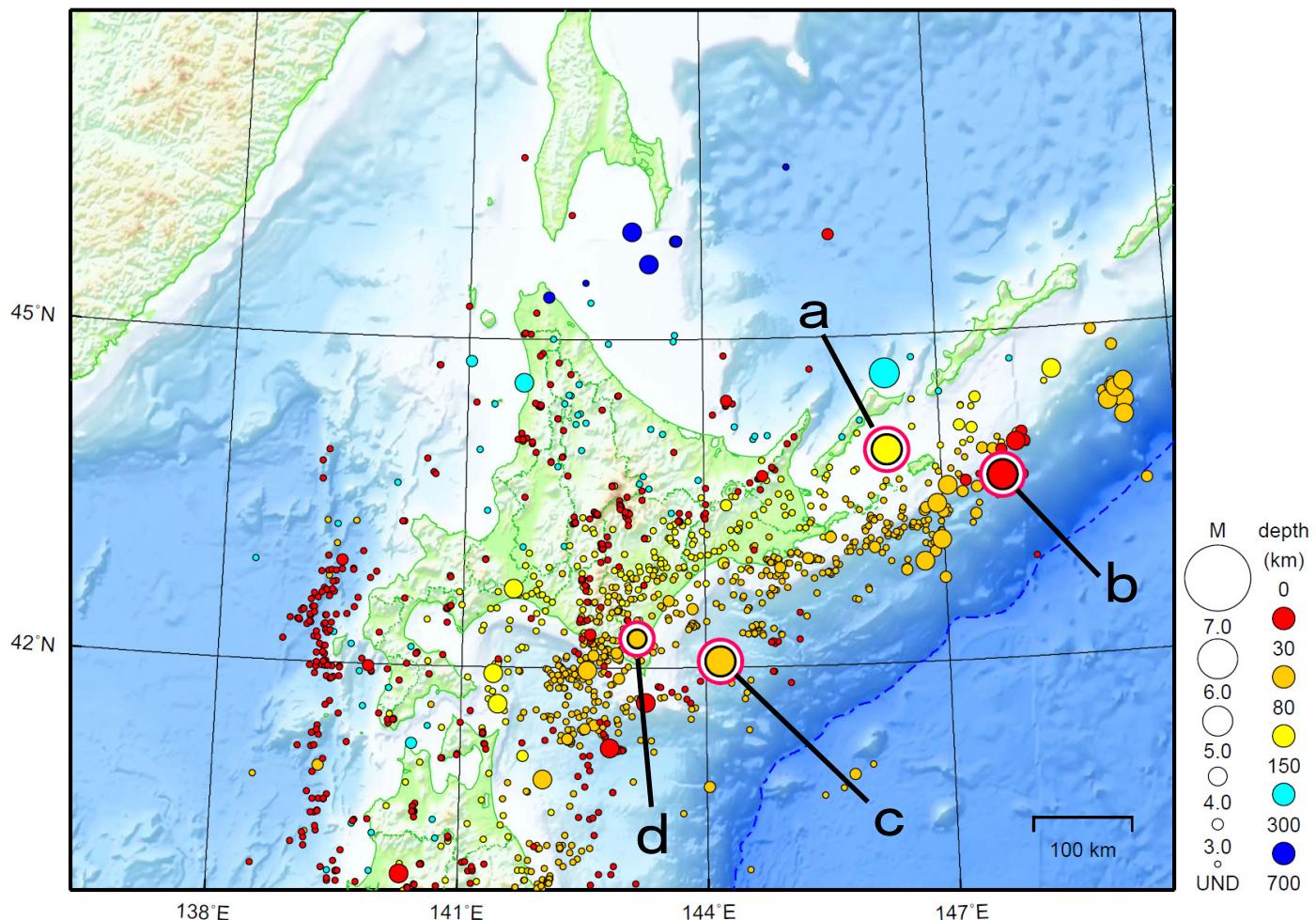
能登半島沖で3月25日にM6.9の地震があった。また震度5弱を観測した余震が3回発生した。気象庁はこの地震を「平成19年(2007年)能登半島地震」と命名した。

[図中に日時分、マグニチュードを付した地震はM5.0以上の地震、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。
また、上に表記した地震はM6.0以上、またはM4.0以上で最大震度5弱以上を観測した地震である。]

北海道地方

2007/03/01 00:00 ~ 2007/03/31 24:00

N=1390



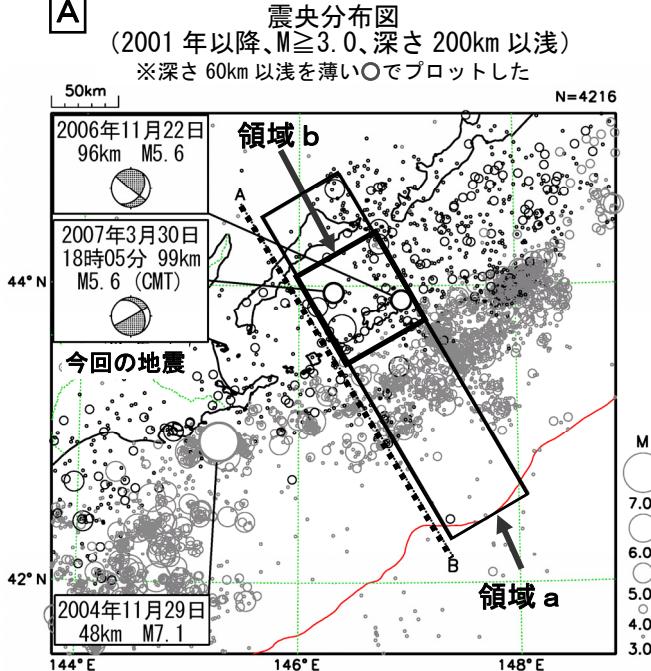
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- a) 3月 30日に国後島付近で M5.6 (最大震度 3) の地震があった。
- b) 3月 11日に北海道東方沖で M5.6 (最大震度 3) の地震があった。
- c) 3月 18日に十勝沖で M5.6 (最大震度 3) の地震があった。
- d) 3月 30日に十勝支庁南部で M4.7 (最大震度 3) の地震があった。

[上述の地震はM6.0 以上、陸域でM4.0 以上かつ最大震度 3 以上、海域でM5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

3月30日 国後島付近の地震

A

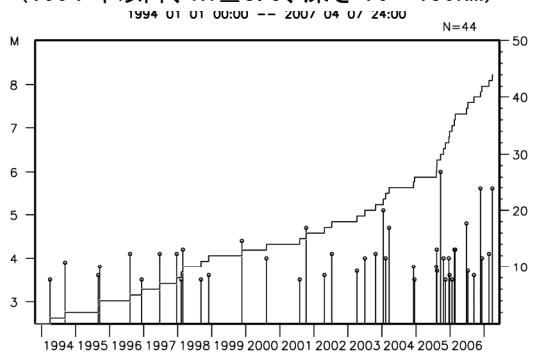


2007年3月30日18時05分に国後島付近の深さ99kmでM5.6(最大震度3)の地震が発生した。余震は直後にM3に満たない地震が数回観測されたのみであった。

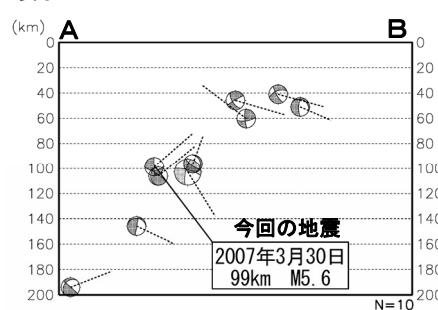
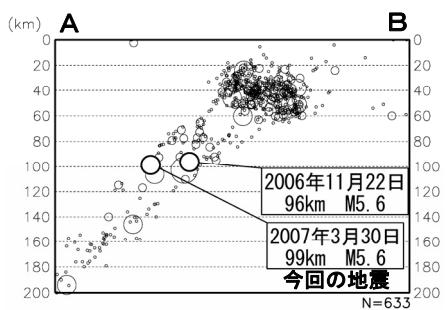
この地震の発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した地震である。2001年以降の活動を見ると、2005年後半から増加しているように見える。

今回の地震の震源付近では、2006年11月22日にM5.6(最大震度4)の地震が発生している(A)。

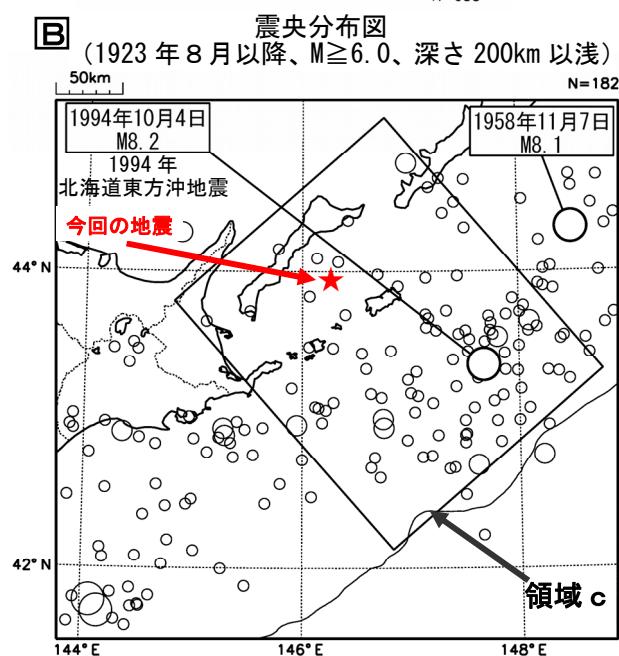
領域b内の地震活動経過図、回数積算図
(1994年以降、 $M \geq 3.5$ 、深さ 70~130km)



領域aの断面図(A-B投影)及びメカニズム解(CMT解)
※メカニズム解には圧力軸をあわせて表示した

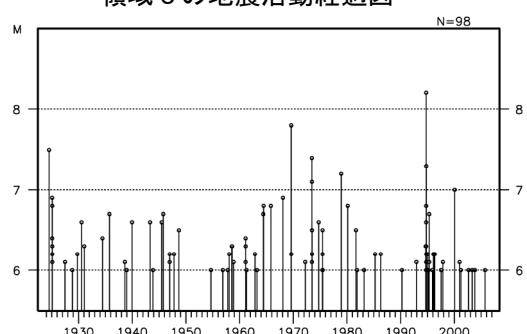


B

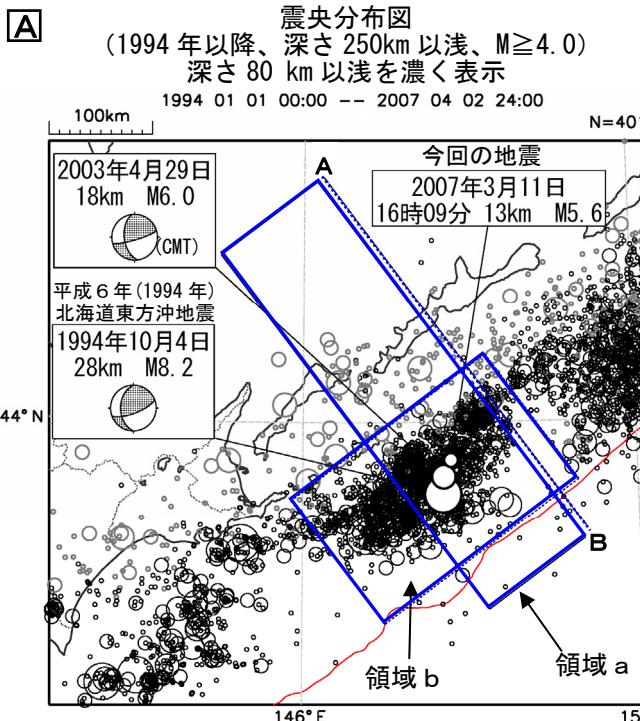


1923年8月以降の地震活動をみると、今回の地震の周辺では1994年10月4日のM8.2(1994年北海道東方沖地震、最大震度6)が発生している。(B)

領域cの地震活動経過図



3月11日 北海道東方沖の地震

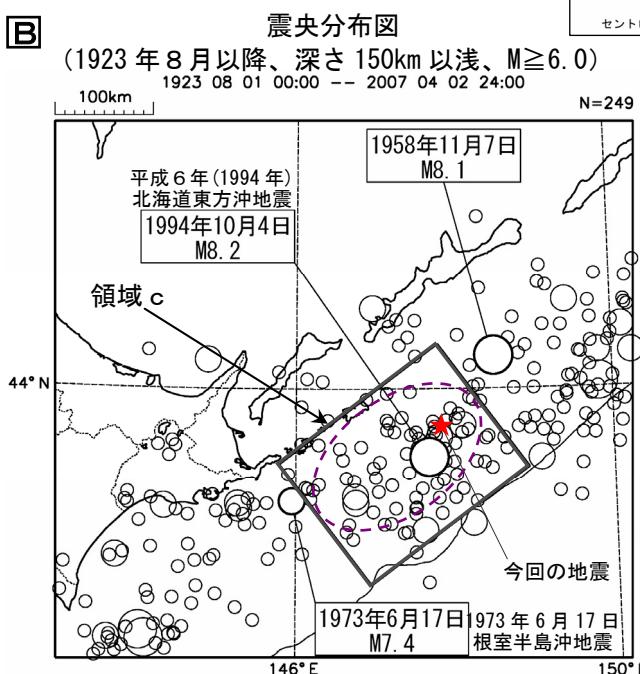
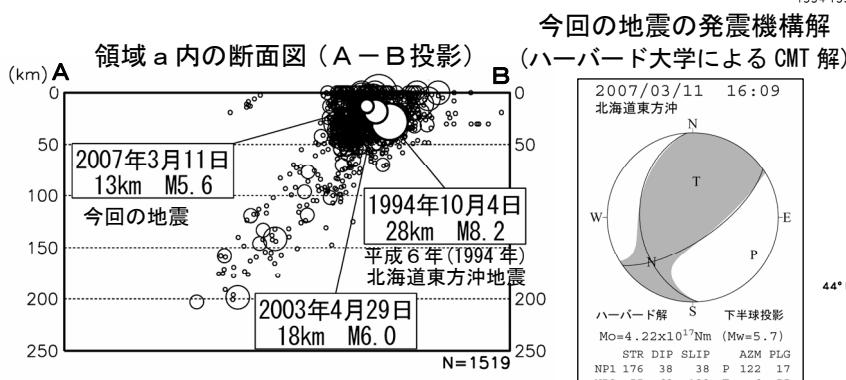
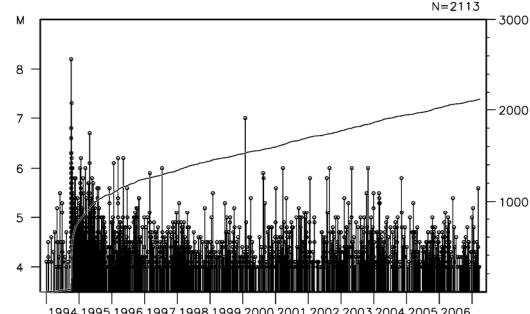


2007年3月11日16時09分に北海道東方沖の深さ13kmでM5.6(最大震度3)の地震が発生した。発震機構(ハーバード大学によるCMT解)は、北西-南東方向に圧力軸を持つ型であった。

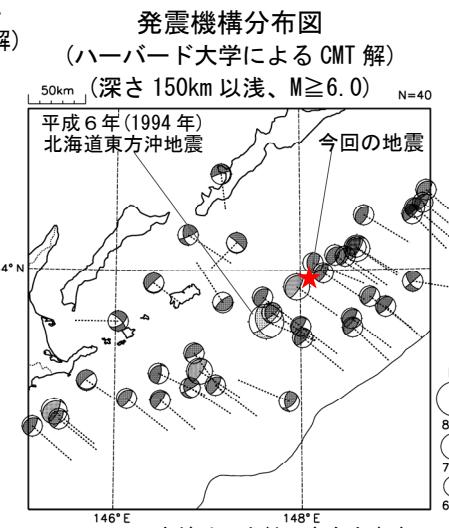
この地震は太平洋プレートの沈み込みに伴い発生したと考えられる。4月2日現在、余震活動は低調である。

この付近は「平成6年(1994年)北海道東方沖地震」(M8.2、最大震度6)の余震域内にあたり、M5以上の地震が度々発生している。今回の地震の震源付近では2003年4月29日にM6.0(最大震度3)の地震が発生している(A)。

領域b内の地震活動経過図、回数積算図
1994 01 01 00:00 -- 2007 04 02 24:00 N=2113



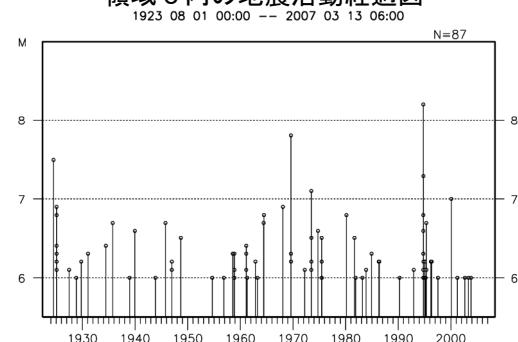
楕円は1994年北海道東方沖地震の大まかな余震域を示す。



点線は圧力軸の方向を表す。

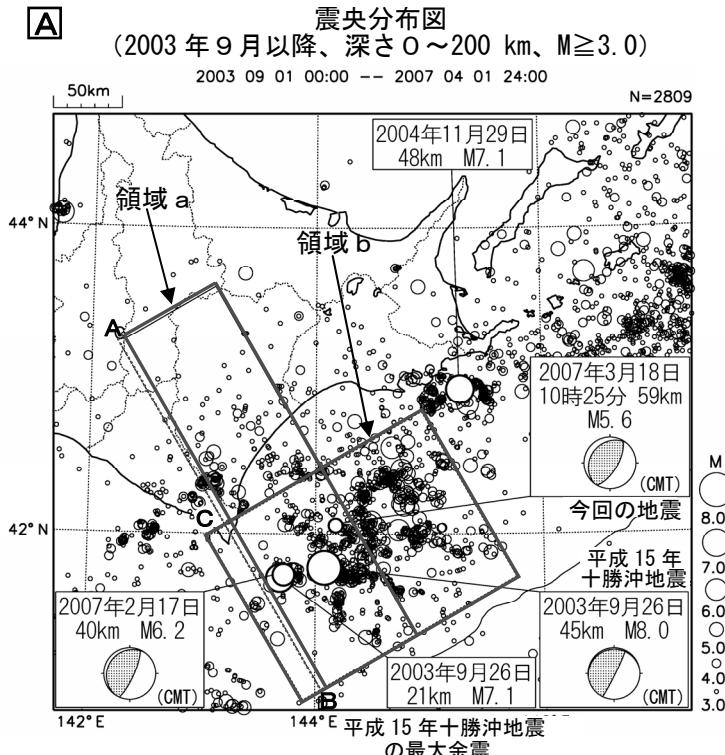
1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近では、「平成6年(1994年)北海道東方沖地震」(M8.2)など、M6以上の地震が度々発生している(B)。

領域c内の地震活動経過図



3月18日 十勝沖の地震

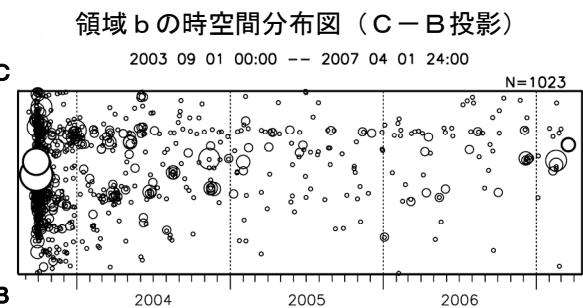
A



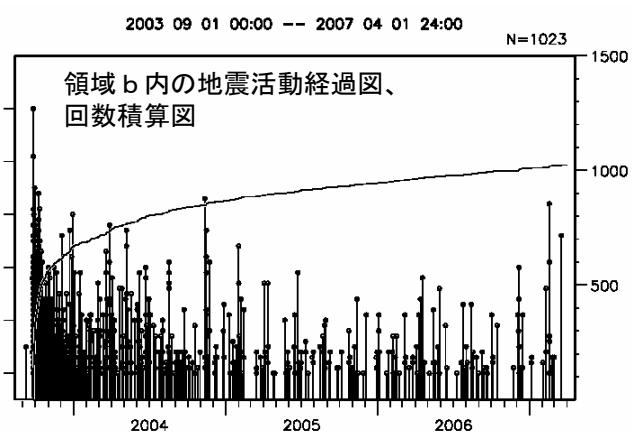
2007年3月18日10時25分に十勝沖の深さ59kmでM5.6(最大震度3)の地震が発生した。発震機構(CMT解)は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界付近で発生した地震と考えられる。4月1日現在余震は発生していない。

今回の地震は、「平成15年(2003年)十勝沖地震」(M8.0、最大震度6弱)の地震の余震域内で発生した。同余震域内では2007年2月17日にM6.2の地震(最大震度4)が発生している。(A)。

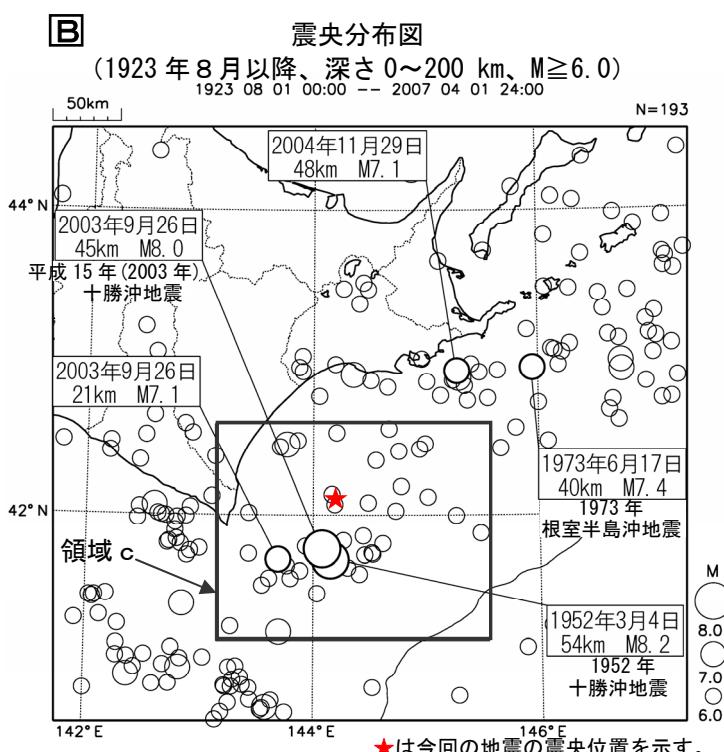
C



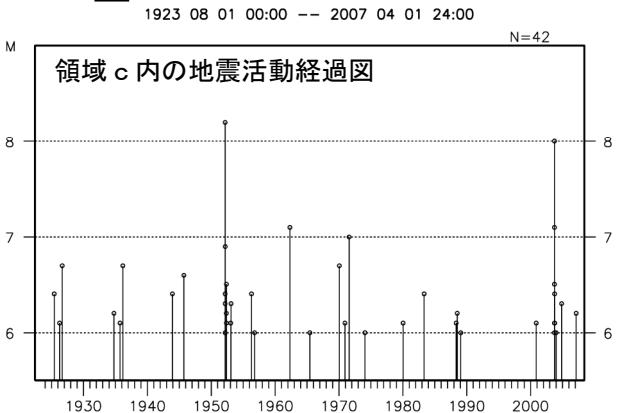
M



B

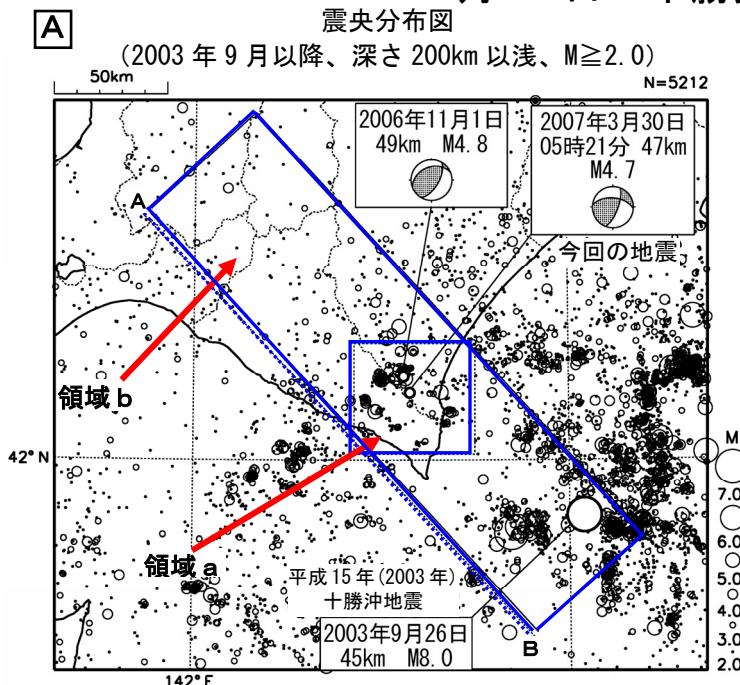


1923年8月以降の活動をみると、この付近では、「平成15年(2003年)十勝沖地震」(M8.0、最大震度6弱)、1952年十勝沖地震(M8.2、最大震度5)が発生している(B)。



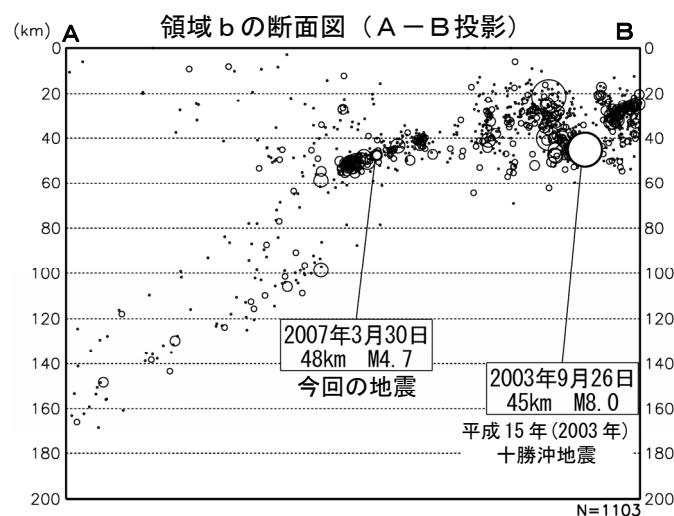
3月30日 十勝支庁南部の地震

A

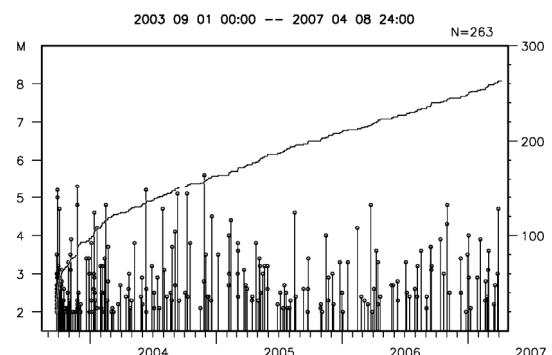


2007年3月30日05時21分に十勝支庁南部の深さ47kmでM4.7(最大震度3)の地震が発生した。今回の地震の発震機構は北西-南東方向に圧力軸をもつ型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界付近で発生した地震である。余震活動は低調であった。

今回の地震の震源付近(領域a)はクラスター状の活動が見られるところで、最近では2006年11月1日にM4.8(最大震度4)の地震が発生している(A)。

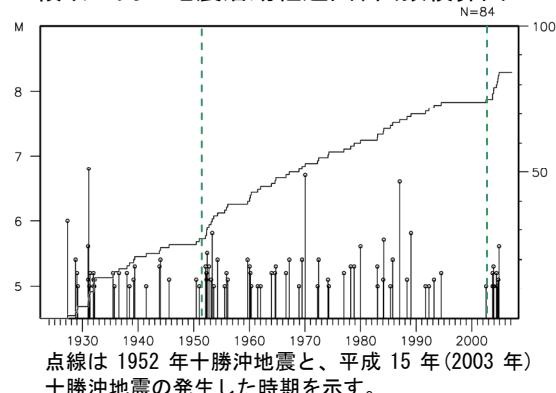


領域a内の地震活動経過図、回数積算図
(深さ20~80km)



1923年8月以降のM5.0以上の活動をみると、今回の地震の震央付近(領域c)では、M6.0以上の地震が4回発生している。また、2003年十勝沖地震前に地震発生数が少なく、発生後は増加しているよう見える。1952年十勝沖地震前にも似たような傾向が見える(B)。

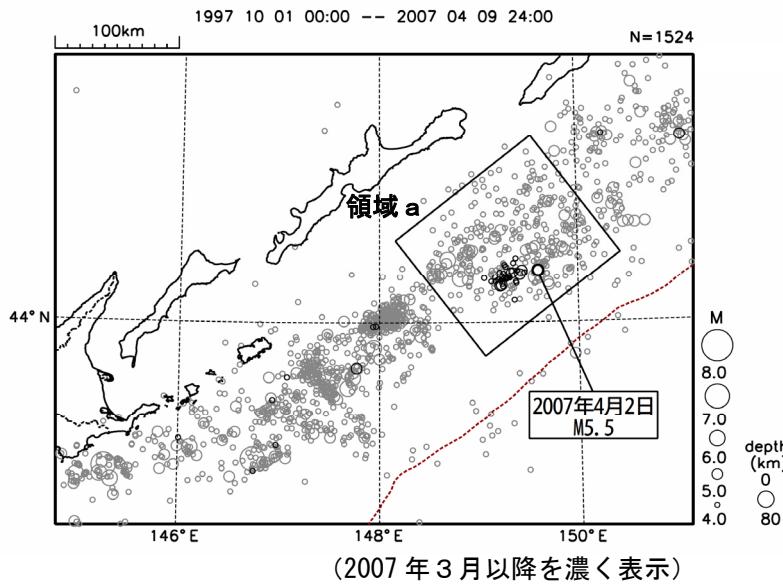
領域c内の地震活動経過図、回数積算図



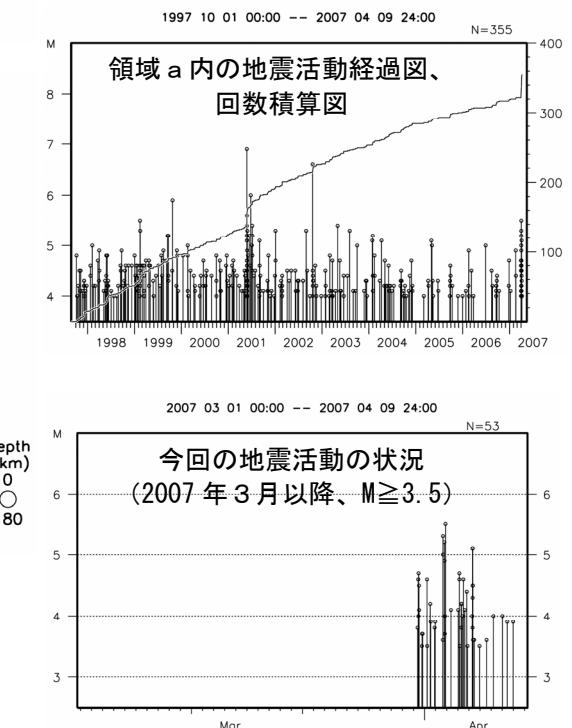
★は今回の地震の震央位置を示す。

択捉島南東沖の地震活動

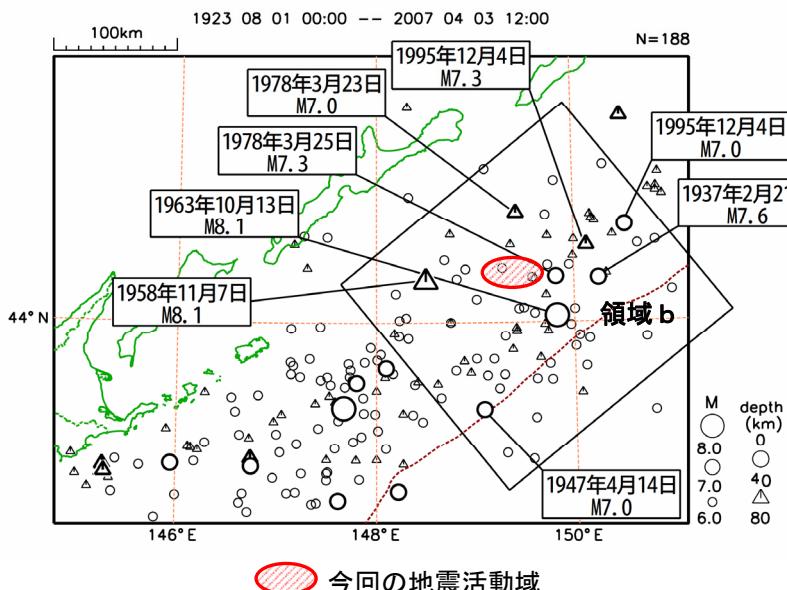
震央分布図（1997年10月以降、 $M \geq 4.0$ ）



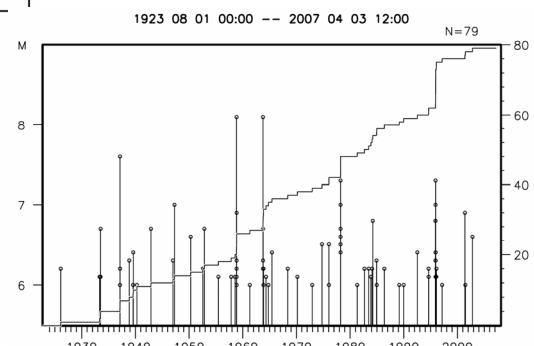
2007年3月末ころから択捉島南東沖で地震活動が始まつた。4月9日現在、最大は4月2日21時19分に発生したM5.5の地震である。活動は次第に收まりつつあるように見える。



震央分布図（1923年8月以降、 $M \geq 6.0$ ）



領域 b 内の地震活動経過図、回数積算図

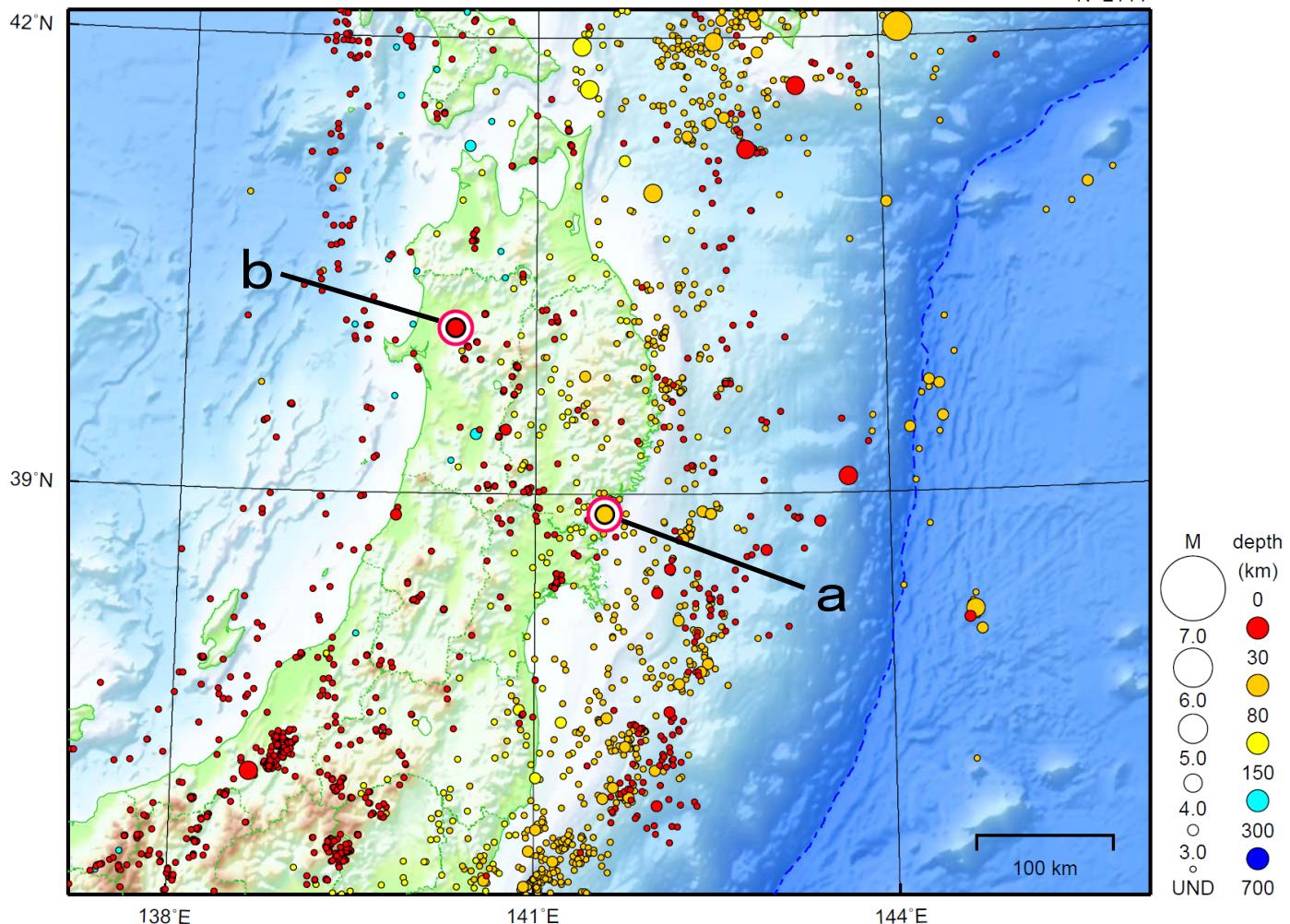


択捉島沖では過去にM7.0以上の大規模な地震がたびたび発生しており、今回の地震活動域の近傍では1958年11月7日(M8.1;プレート内部と考えられている)と1963年10月13日(M8.1;プレート境界と考えられている)にM8.0以上の地震が発生している。

東北地方

2007/03/01 00:00 ~ 2007/03/31 24:00

N=2111



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- a) 3月 31 日に宮城県沖〔宮城県北部〕で M4.8 (最大震度 3) の地震があった。
- b) 3月 7 日に秋田県内陸北部で M4.2 (最大震度 4) の地震があった。

(上記期間外)

4月 5 日に仙台湾〔宮城県沖〕で M4.5 (最大震度 3) の地震があった。

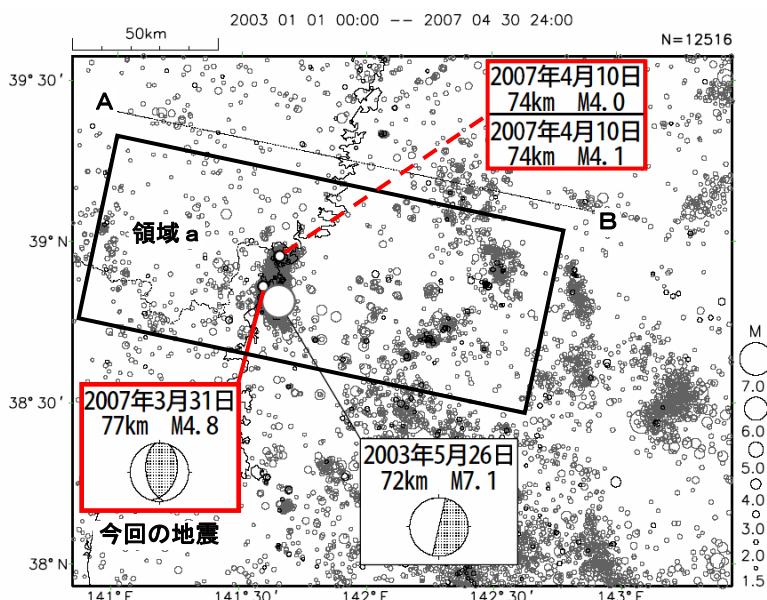
4月 10 日に宮城県沖〔岩手県沿岸南部〕で M4.0 と M4.1 (最大震度 3) の地震があった。

[上述の地震はM6.0 以上、陸域でM4.0 以上かつ最大震度 3 以上、海域でM5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

3月31日 宮城県沖〔宮城県北部〕の地震

A 震央分布図 (2003年1月以降、M≥1.5、深さ0~120km)

2007年1月以降は濃く表示



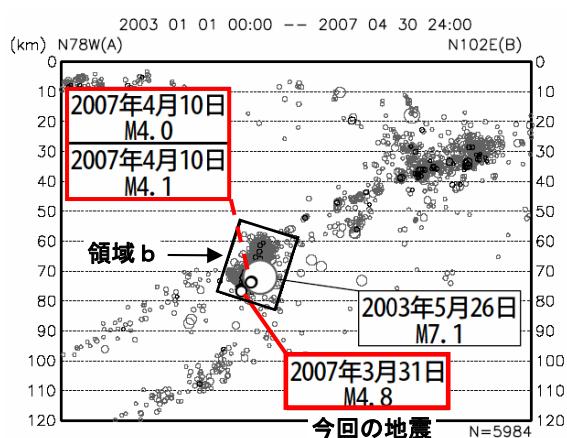
[]内は気象庁が情報発表に用いた震央地域名

2007年3月31日22時32分に宮城県沖〔宮城県北部〕の深さ77kmでM4.8(最大震度3)の地震が発生した。この地震は2003年5月26日の宮城県沖の地震(M7.1、最大震度6弱)の余震域の最下端で発生した。

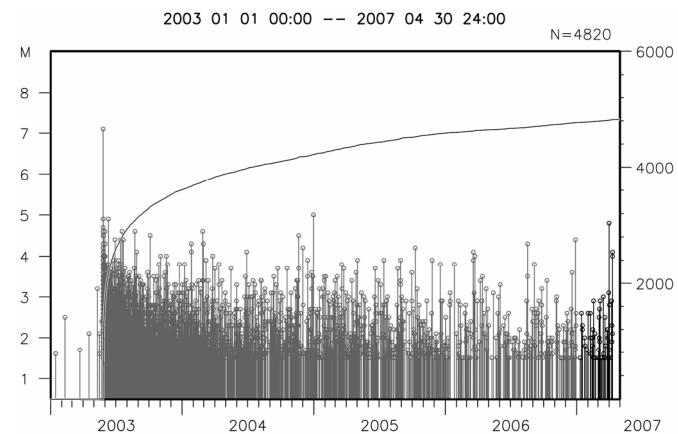
この地震の発震機構は、太平洋プレートが沈み込む方向に圧力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した地震である。(A)

なお、4月10日10時22分と10時23分にもそれぞれ、M4.0とM4.1(暫定、最大震度3)の地震が発生した。

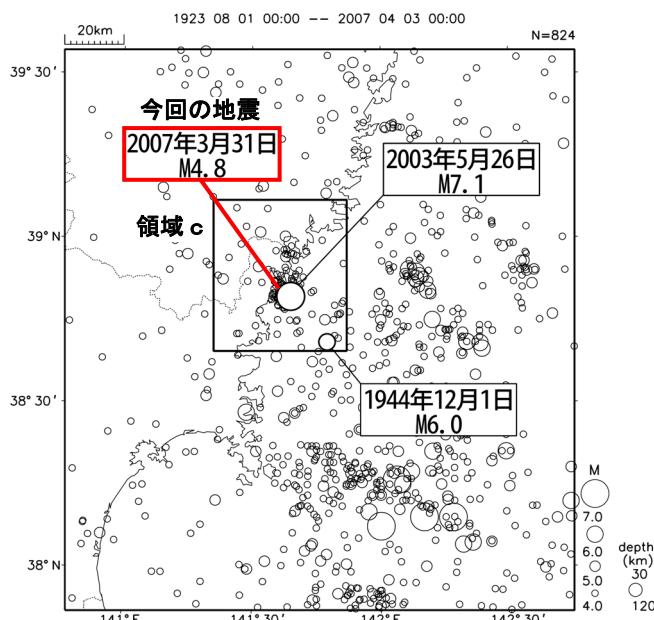
領域a内の断面図(A-B投影)



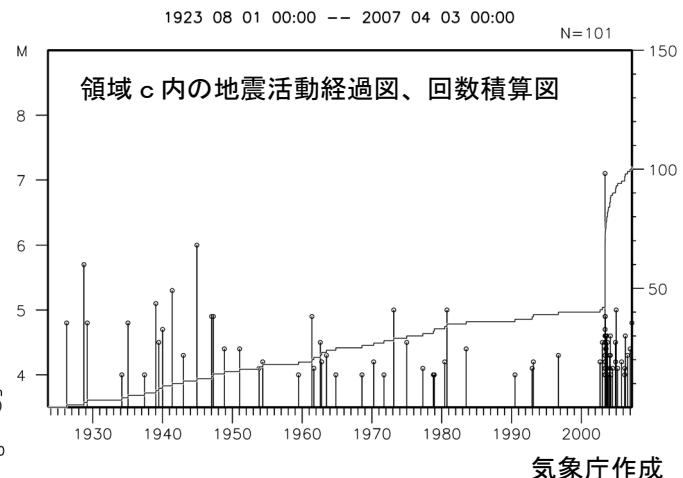
領域b内の地震活動経過図、回数積算図



B 震央分布図 (1923年8月以降、M≥4.0、30~120km)



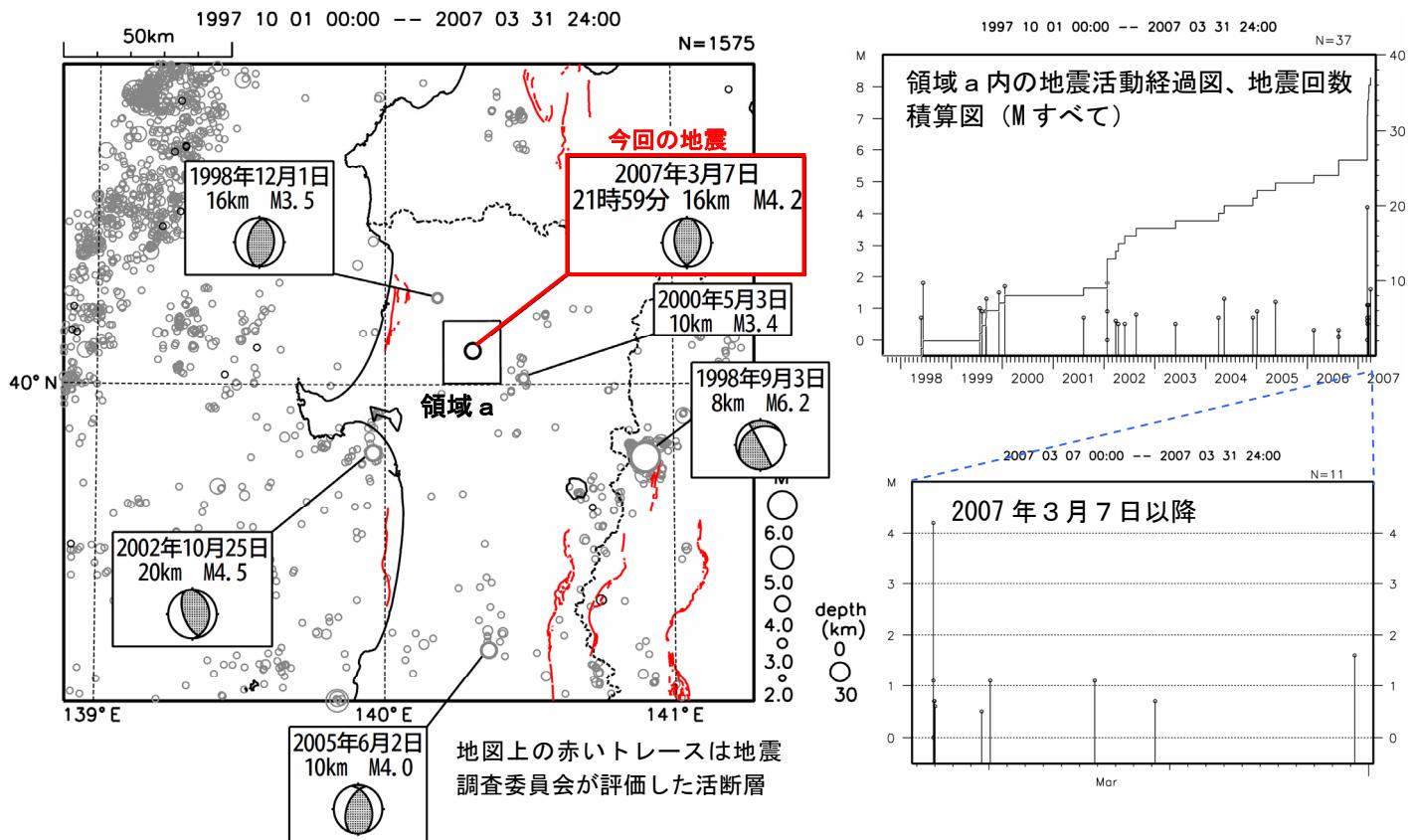
1923年8月以降の活動を見ると、領域cでは2003年5月26日の地震以降、余震活動の活発な状態が続いている。(B)



気象庁作成

3月7日 秋田県内陸北部の地震

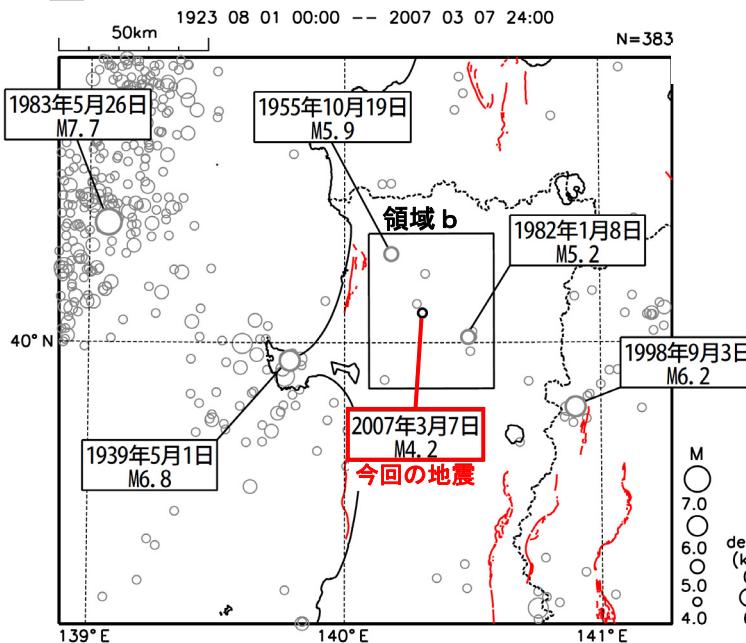
A 震央分布図（1997年10月以降、 $M \geq 2.0$ ）。2007年2月以降を濃く表示



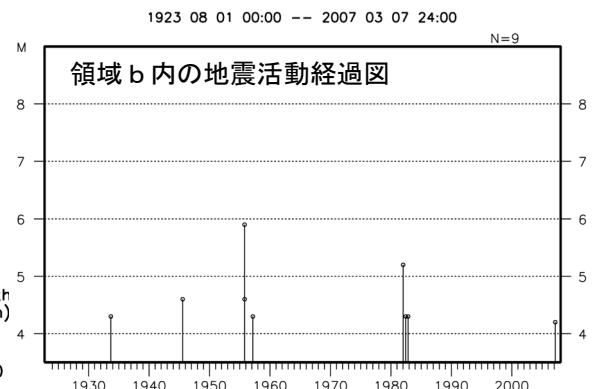
2007年3月7日21時59分に秋田県内陸北部の深さ16kmでM4.2（最大震度4）の地震が発生した。発震機構は、東西方向に圧力軸を持つ逆断層型でこの付近ではよく見られるタイプである。余震活動は低調であった。

1997年10月以降の活動を見ると、この付近（領域a）では今回の地震以外にM2.0以上の地震は観測されていない。（A）

B 震央分布図（1923年8月以降、 $M \geq 4.0$ ）



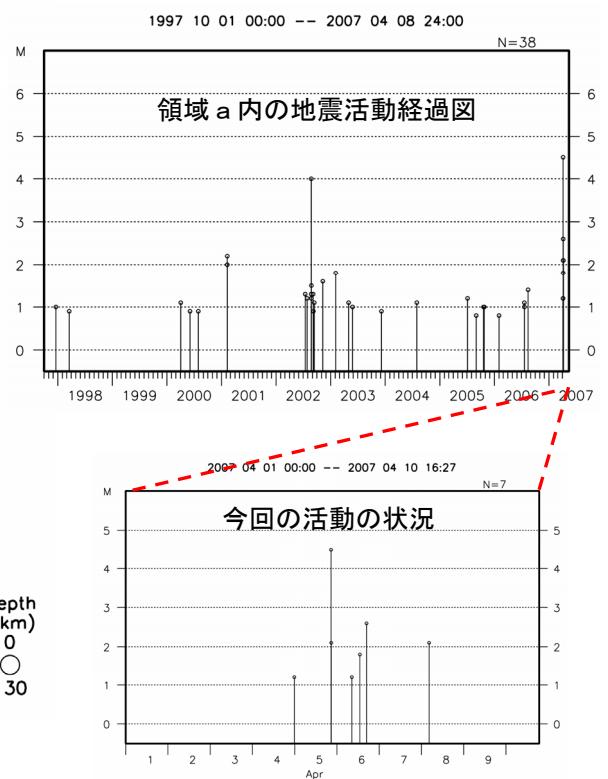
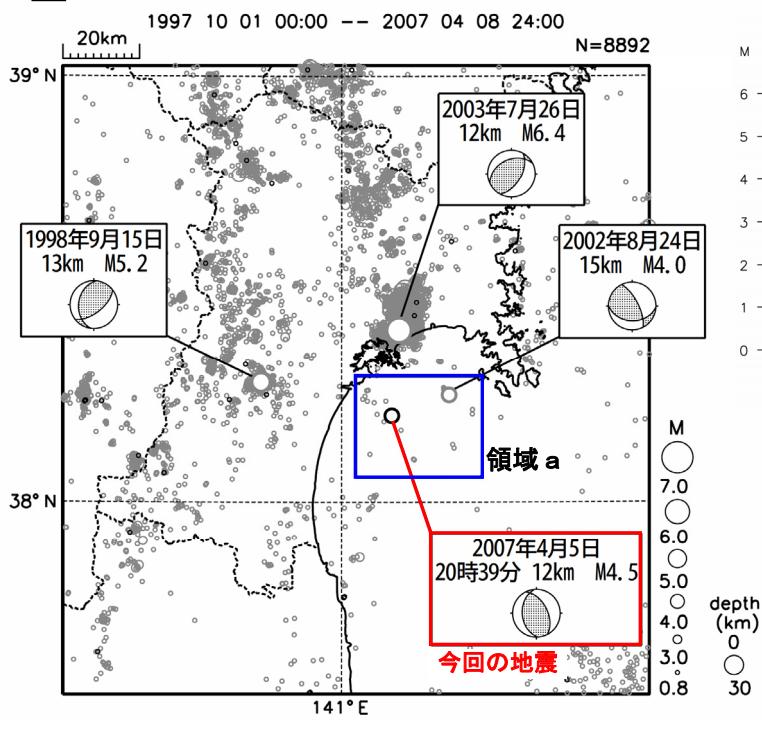
1923年8月以降の活動を見ると、領域bではM4.0を超える地震が9回観測されており、最大規模は1955年に発生した二ツ井地震と呼ばれるM5.9の地震である。（B）



4月5日 仙台湾〔宮城県沖〕の地震

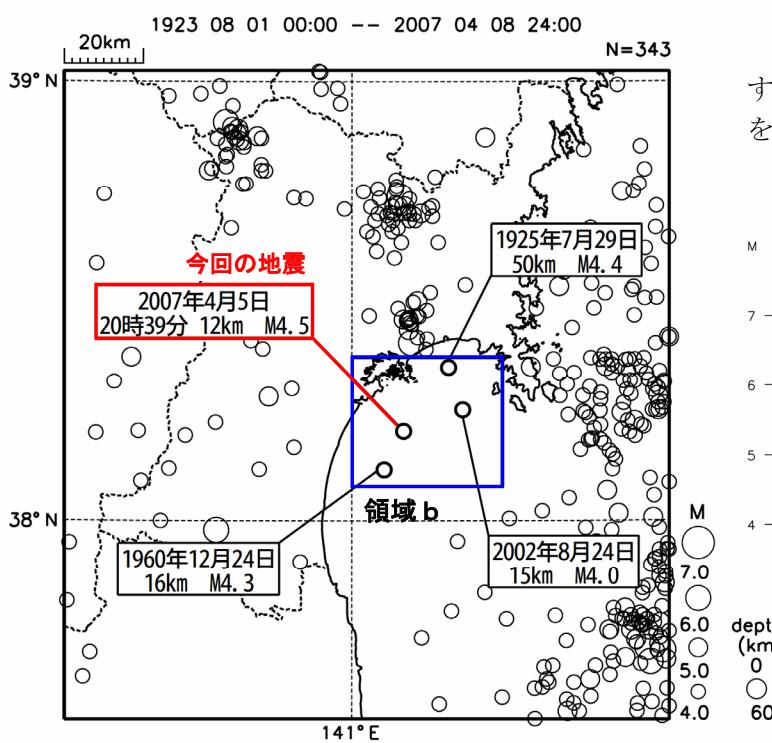
[] 内は気象庁が情報発表に用いた震央地域名

A 震央分布図 (1997年10月以降、M≥0.8)

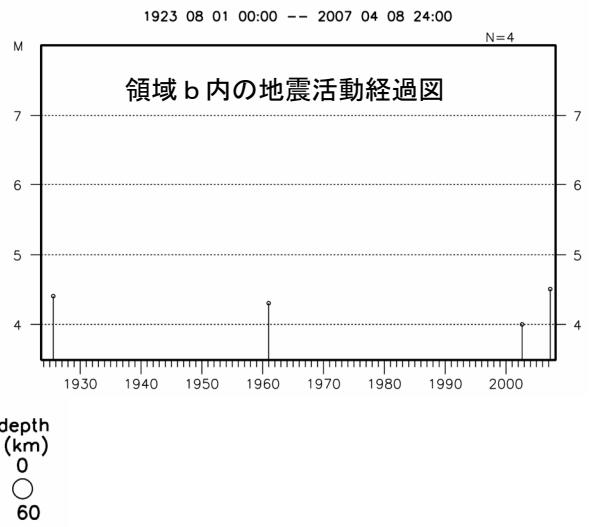


2007年4月5日20時39分に仙台湾〔宮城県沖〕の深さ12kmでM4.5（最大震度3）の地震が発生した。発震機構は東北東－西南西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。余震は小規模なものがいくつか観測された程度で収まった。（A）

B 震央分布図 (1923年8月以降、M≥4.0)



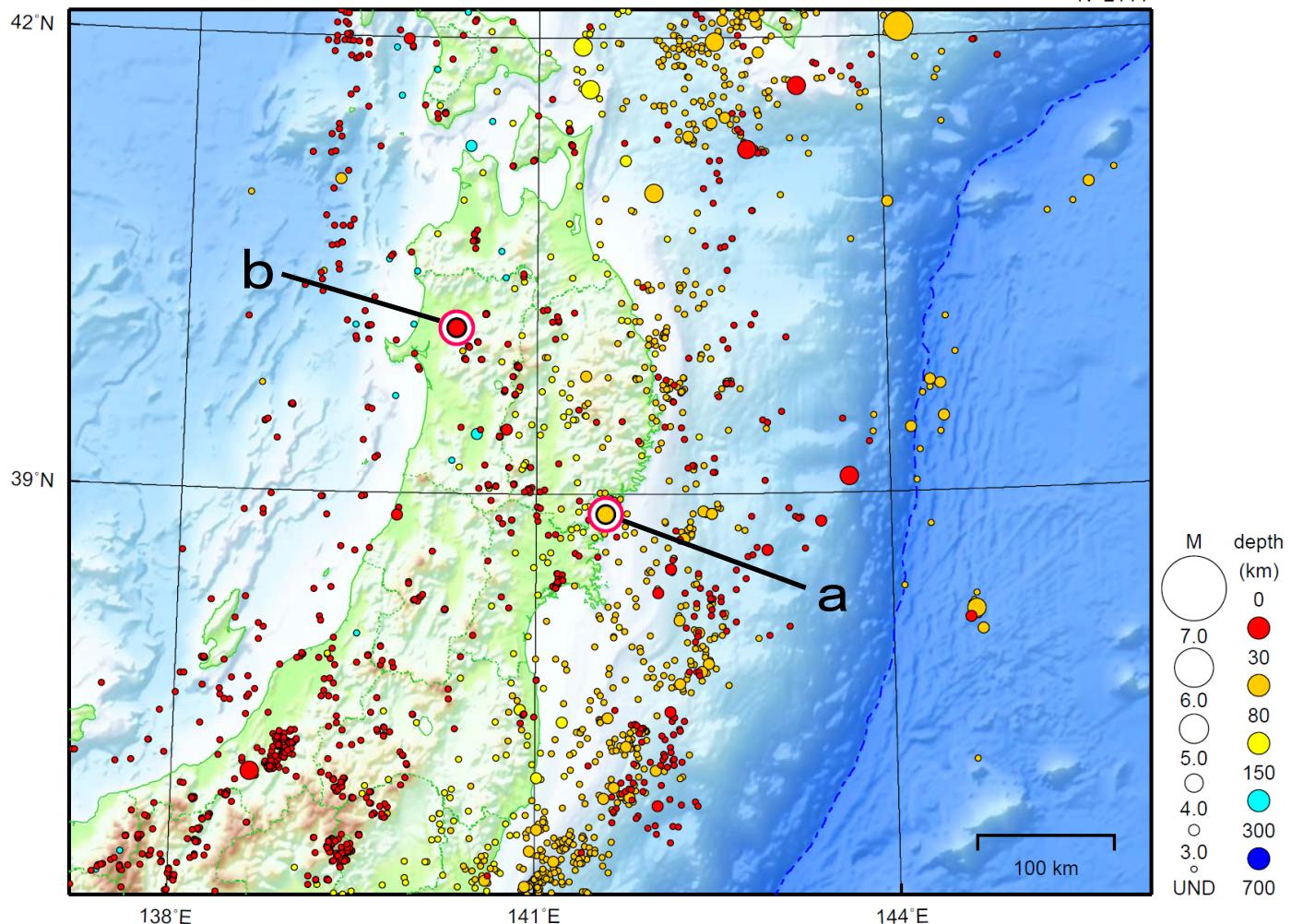
仙台湾付近でM4.0以上の深い地震が発生することは珍しく、1923年8月以降では今回を含め4回しか観測されていない。（B）



東北地方

2007/03/01 00:00 ~ 2007/03/31 24:00

N=2111



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

- a) 3月31日に宮城県沖〔宮城県北部〕でM4.8（最大震度3）の地震があった。
- b) 3月7日に秋田県内陸北部でM4.2（最大震度4）の地震があった。

(上記期間外)

4月5日に仙台湾〔宮城県沖〕でM4.5（最大震度3）の地震があった。

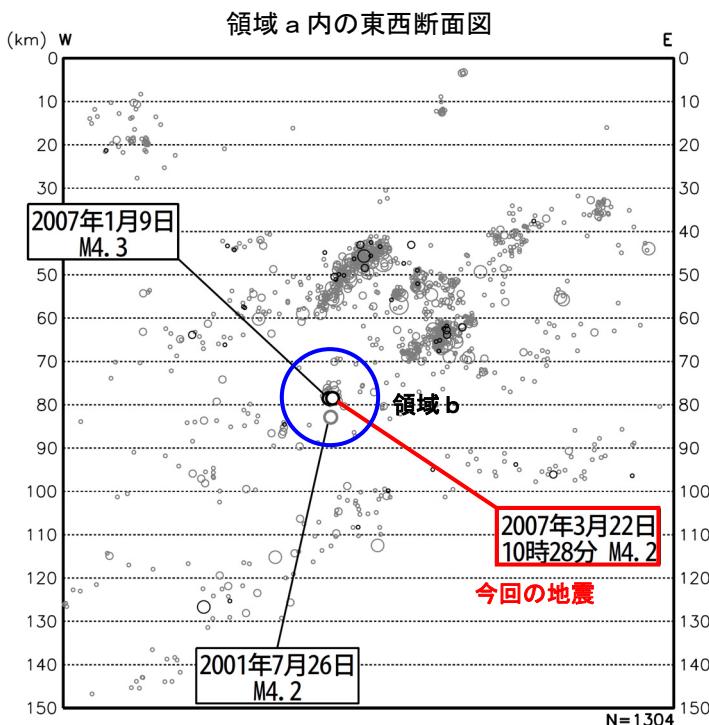
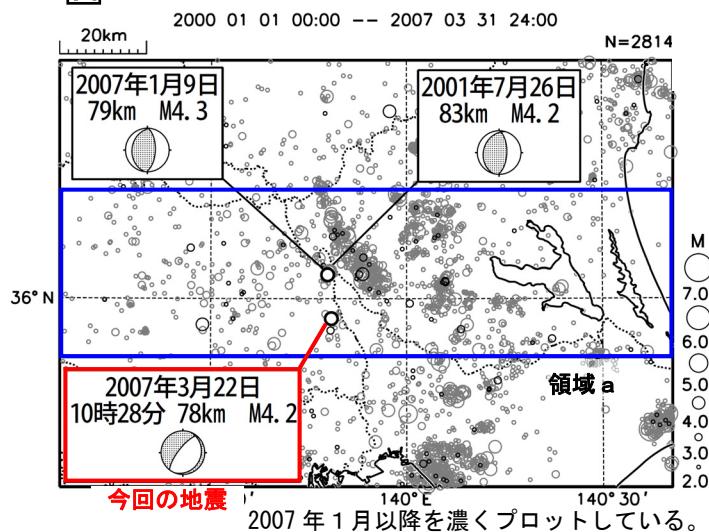
4月10日に宮城県沖〔岩手県沿岸南部〕でM4.0とM4.1（最大震度3）の地震があった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

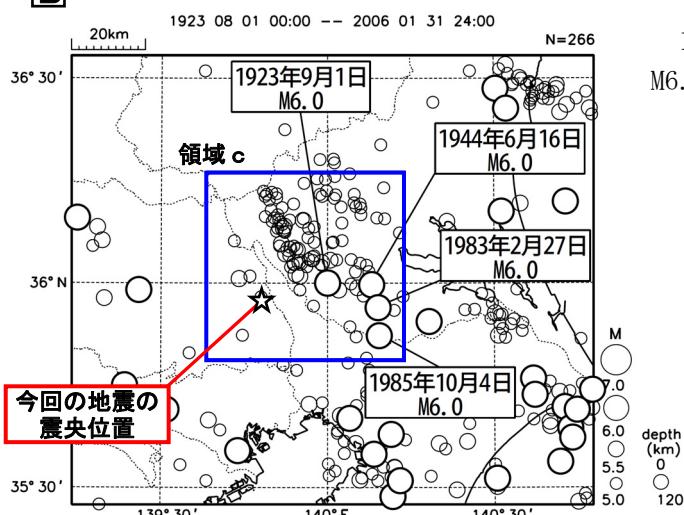
3月22日 埼玉・千葉県境付近〔埼玉県南部〕の地震

〔 〕内は気象庁が情報発表に用いた震央地域名

A 震央分布図 (2000年1月以降、150km以浅、 $M \geq 2.0$)

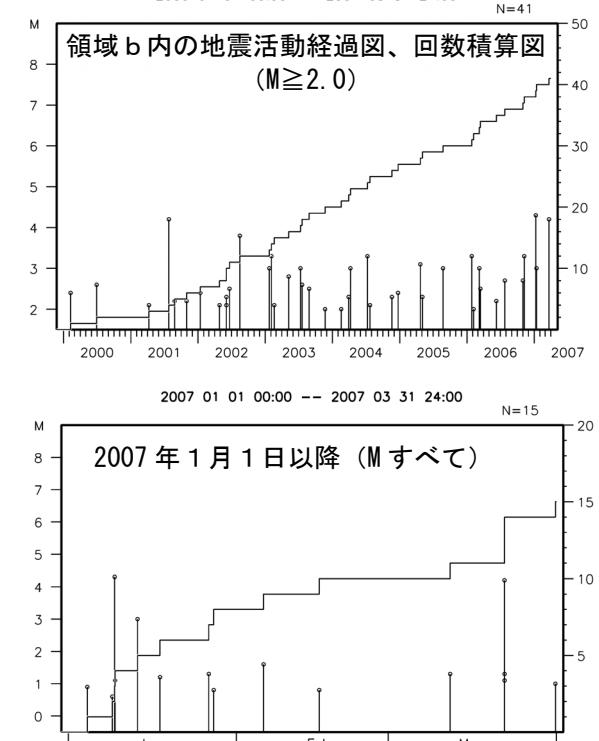


B 震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 5.0$)



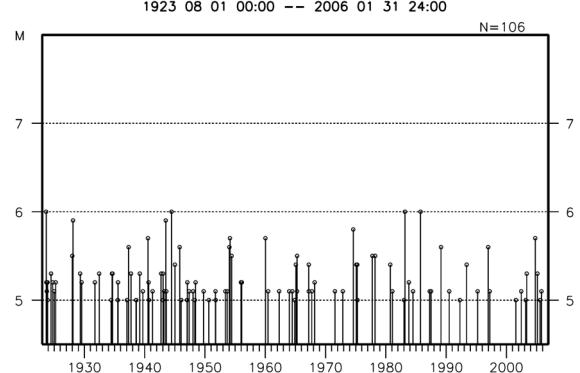
2007年3月22日10時28分に埼玉・茨城県境付近〔埼玉県南部〕の深さ78kmでM4.2(最大震度3)の地震が発生した。発震機構は北西-南東方向に張力軸を持つ型であった。今回の地震の震央付近は地震活動の活発なクラスタが見られる場所であるが、今回の地震はこのクラスタより30km程度深い場所で発生しており、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界付近で発生した地震である。今回の地震の震源付近では2007年1月9日にもM4.3(最大震度3)の地震が発生している(A)

2000 01 01 00:00 -- 2007 03 31 24:00



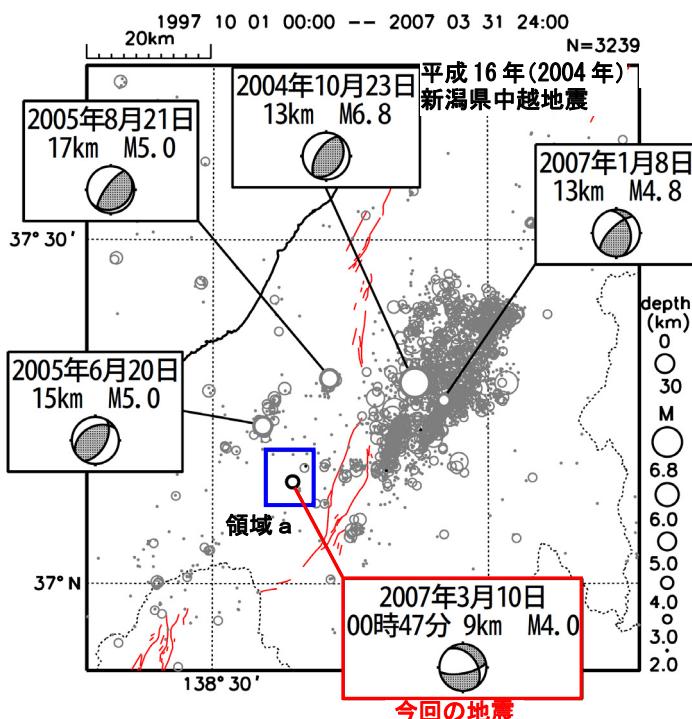
1923年8月以降、今回の地震の震央付近では、M6.0を超える地震が時々発生している。(B)

領域c内の地震活動経過図

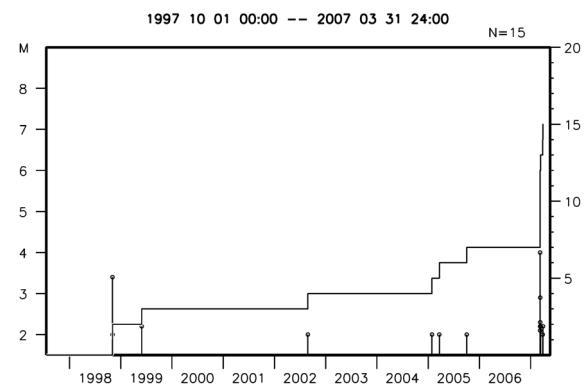


3月10日 新潟県中越地方の地震

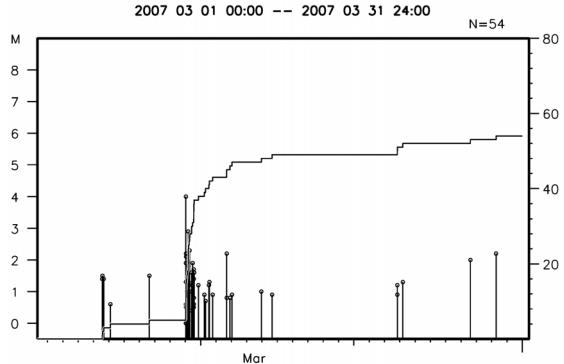
A 震央分布図 (1997年10月以降、 $M \geq 2.0$)
[2007年3月以降の活動を濃く表示]



領域a内の地震活動経過図、回数積算図

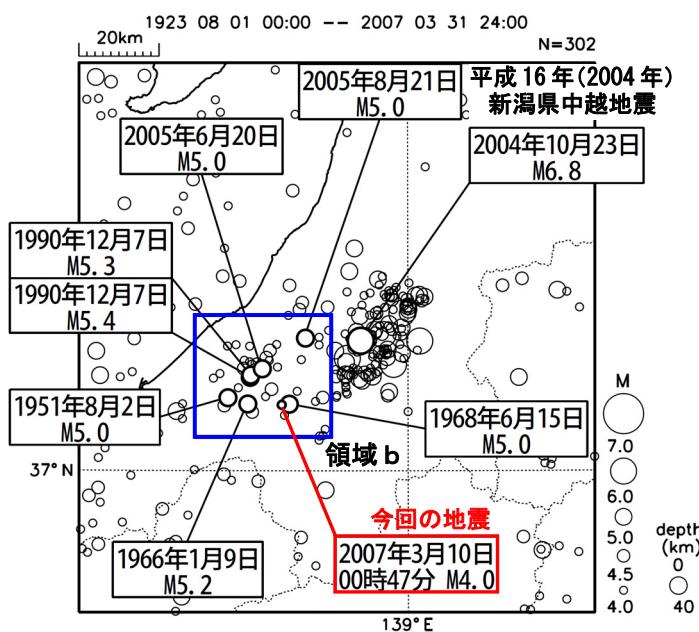


領域a内の地震活動経過図、回数積算図
(2007年3月1日以降、Mすべて)



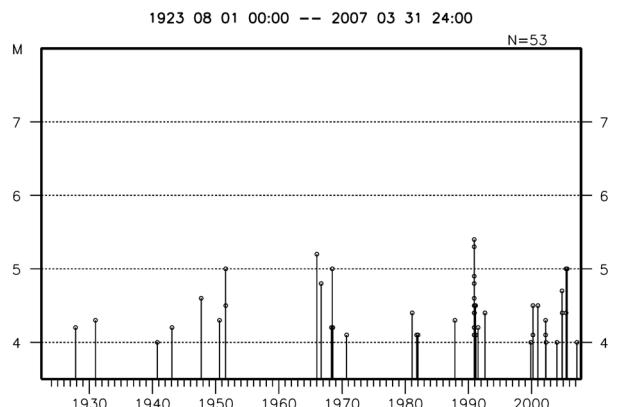
2007年3月10日00時47分に新潟県中越地方の深さ9kmでM4.0（最大震度3）の地震が発生した。発震機構は北北東-南南西方向に張力軸を持つ正断層型であった。余震活動は3日程度ではほぼ収まっている。今回の地震は「平成16年（2004年）新潟県中越地震」の余震域から南西に約20km離れた場所で発生した。（A）

B 震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 4.0$)



1923年8月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近では1990年12月7日にM5.4とM5.3の地震が連続して発生するなど、M5.0以上の地震が時々発生している。最近では2005年6月20日にM5.0の地震が発生している。（B）

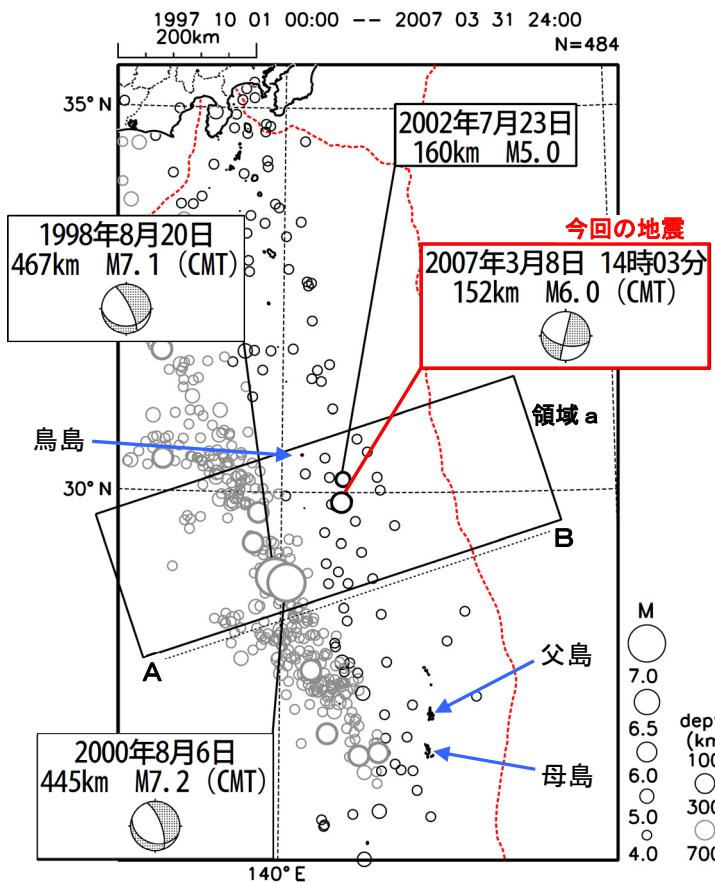
領域b内の地震活動経過図



3月8日 鳥島近海の地震

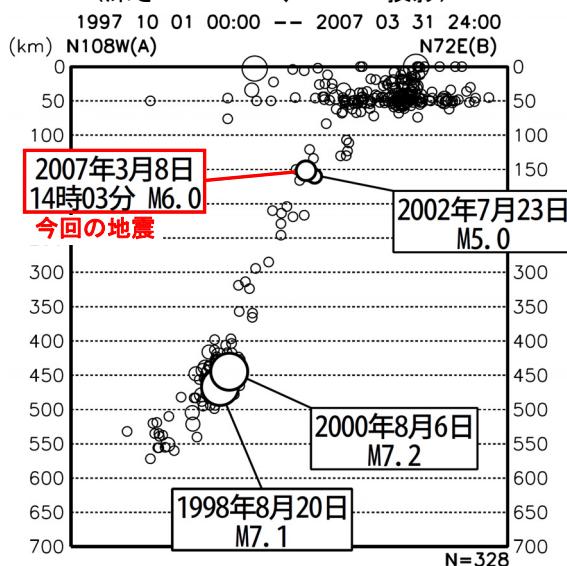
A 震央分布図

(1997年10月以降、深さ100~700km、M \geq 4.0)



領域a内の断面図

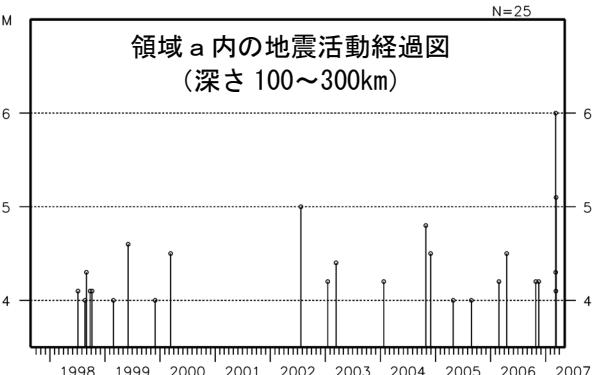
(深さ0~700km、A-B投影)



1997 10 01 00:00 -- 2007 03 31 24:00

領域a内の地震活動経過図

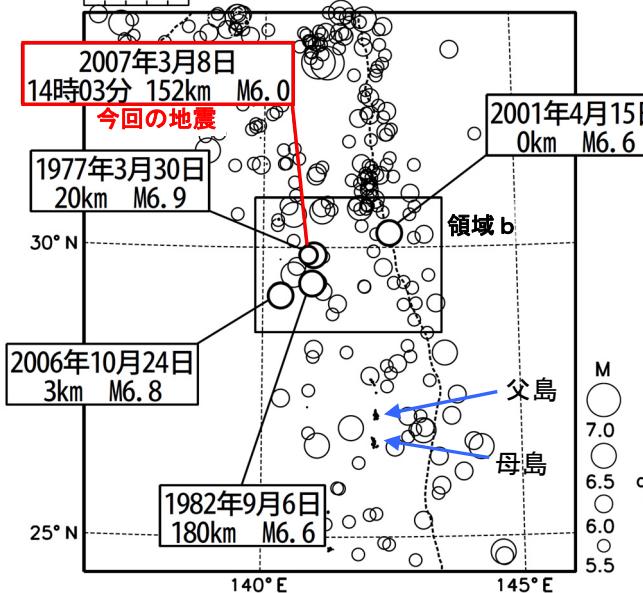
(深さ100~300km)



2007年3月8日 14時03分に鳥島近海の深さ152kmでM6.0(最大震度2)の地震が発生した。発震機構は東北東-西南西方向に張力軸を持つ型で、太平洋プレート内部で発生した地震である。(A)

B 震央分布図 (1923年8月以降、M \geq 5.5)

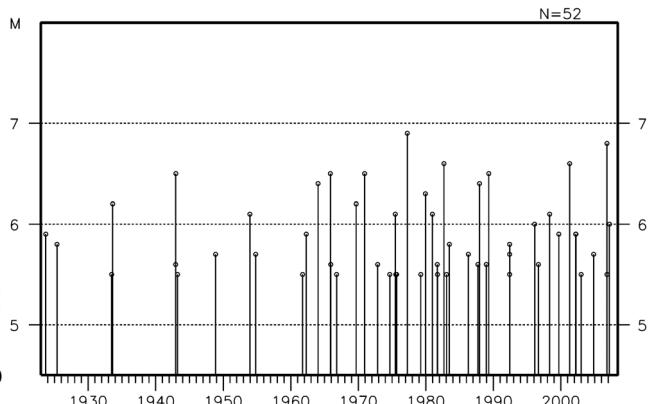
1923 08 01 00:00 -- 2007 03 31 24:00
200km
N=252



1923年8月以降、今回の地震の震央付近ではM6.0以上の地震が時々発生しており、最近では2006年10月24日にM6.8の地震が発生している。(B)

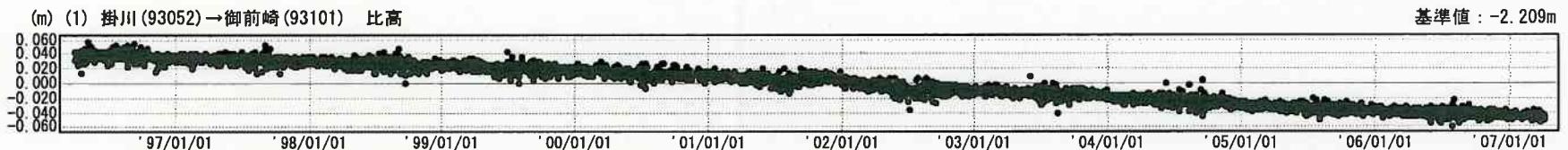
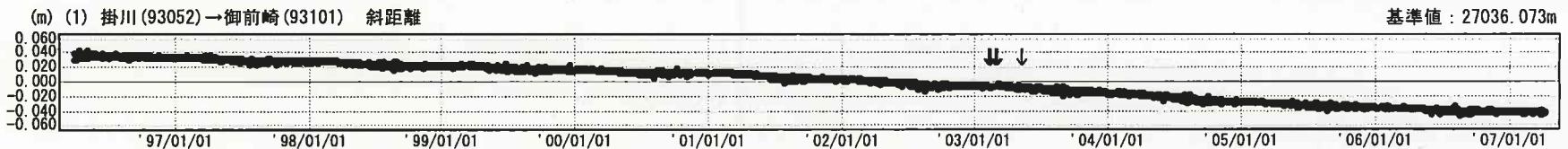
領域b内の地震活動経過図

1923 08 01 00:00 -- 2007 03 31 24:00



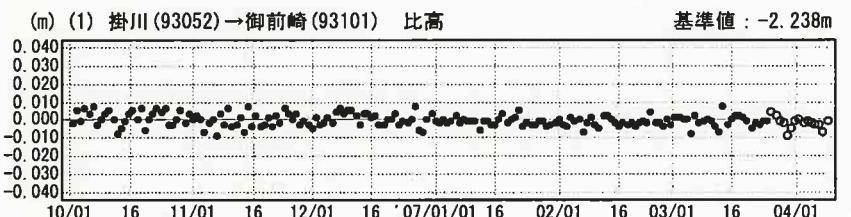
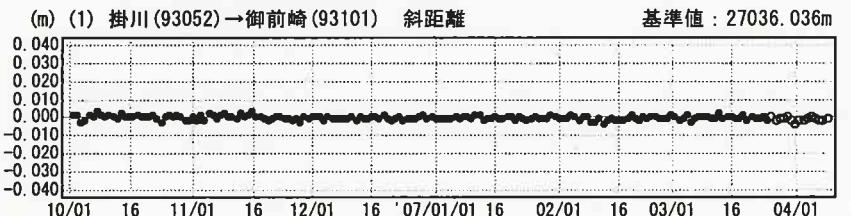
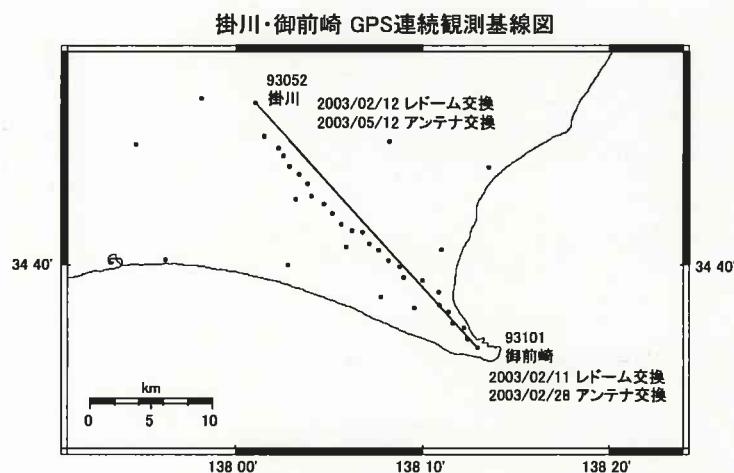
掛川－御前崎間のGPS連続観測結果(斜距離・比高)

期間：1996/04/01～2007/04/08 JST



※グラフ中の矢印(↓)は、アンテナ交換等を示す。

期間：2006/10/01～2007/04/08 JST



●---[F2:最終解] ○---[R2:速報解]

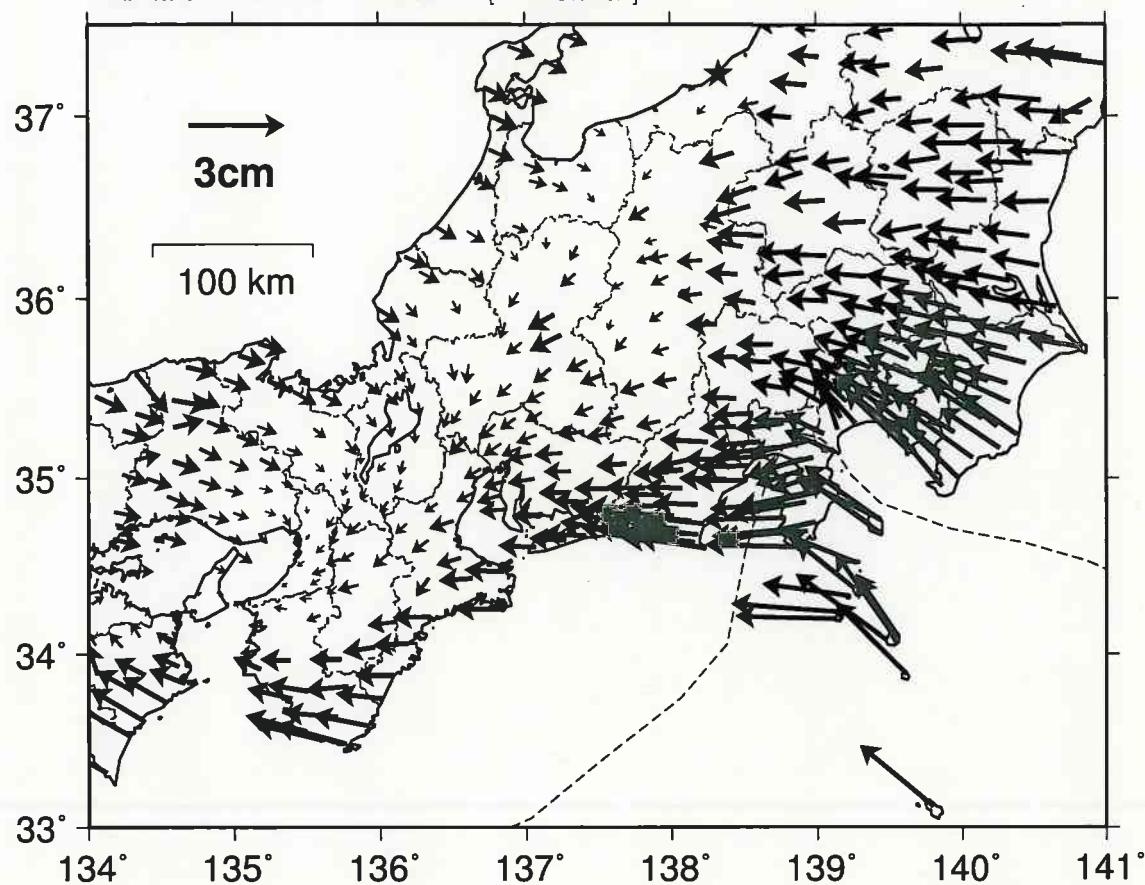
掛川・御前崎周辺の基線には
特段の変化は見られない。

東海地方の最近の地殻変動（水平変動）【大湊固定】

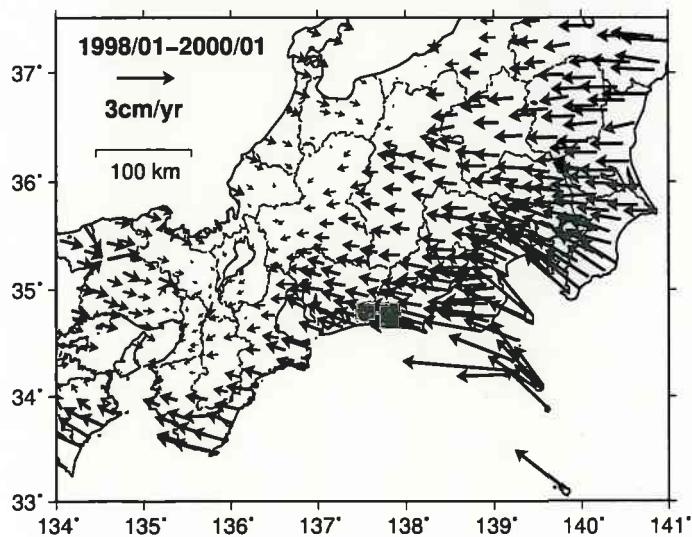
(2006年3月～2007年3月)

基準期間：2006/3/8～2006/3/17 [F2：最終解]

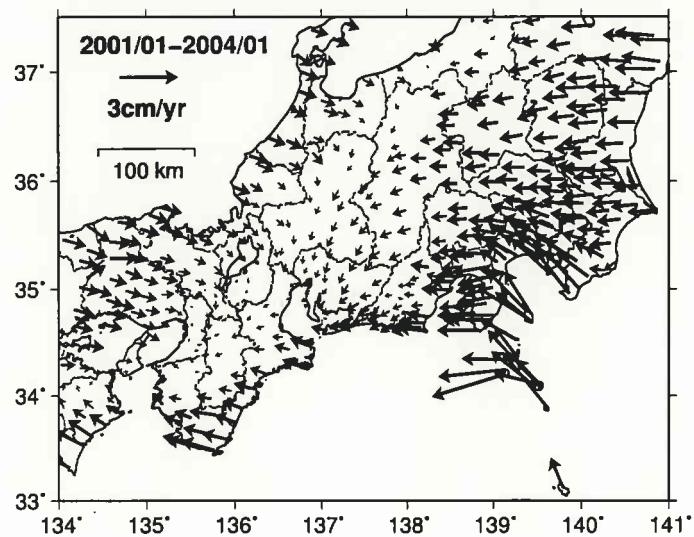
比較期間：2007/3/8～2007/3/17 [F2：最終解]



スロースリップ開始以前の地殻変動速度
(1998年1月～2000年1月)



スロースリップ進行期の地殻変動速度
(2001年1月～2004年1月)

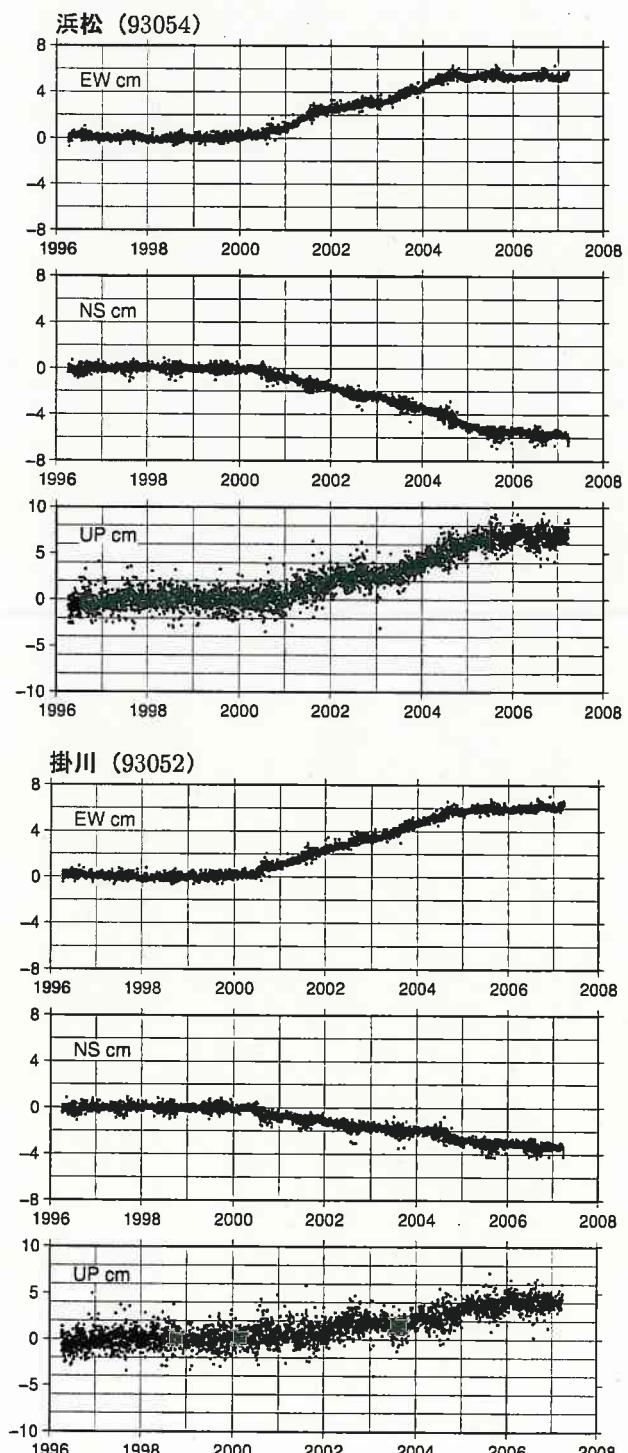
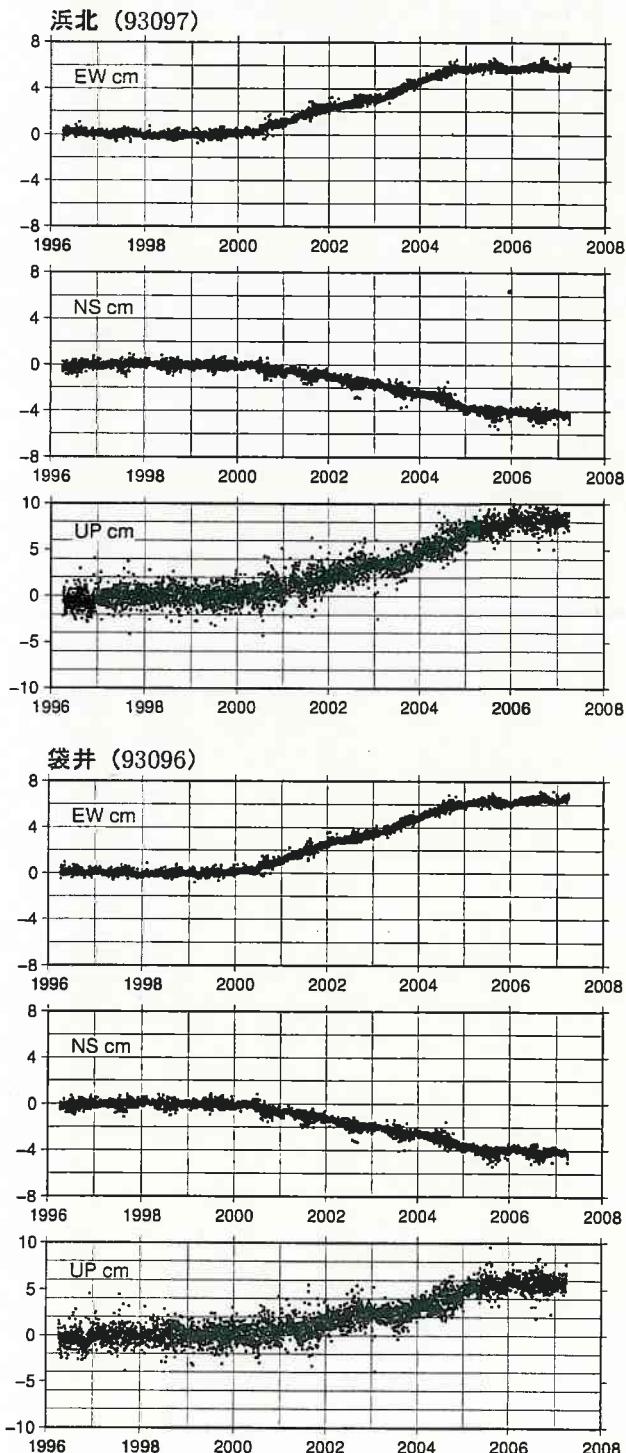


国土地理院資料

東海非定常地殻変動【大湯固定】

最終解 1996/4/10 - 2007/3/17
 速報解 2007/3/18 - 2007/4/2

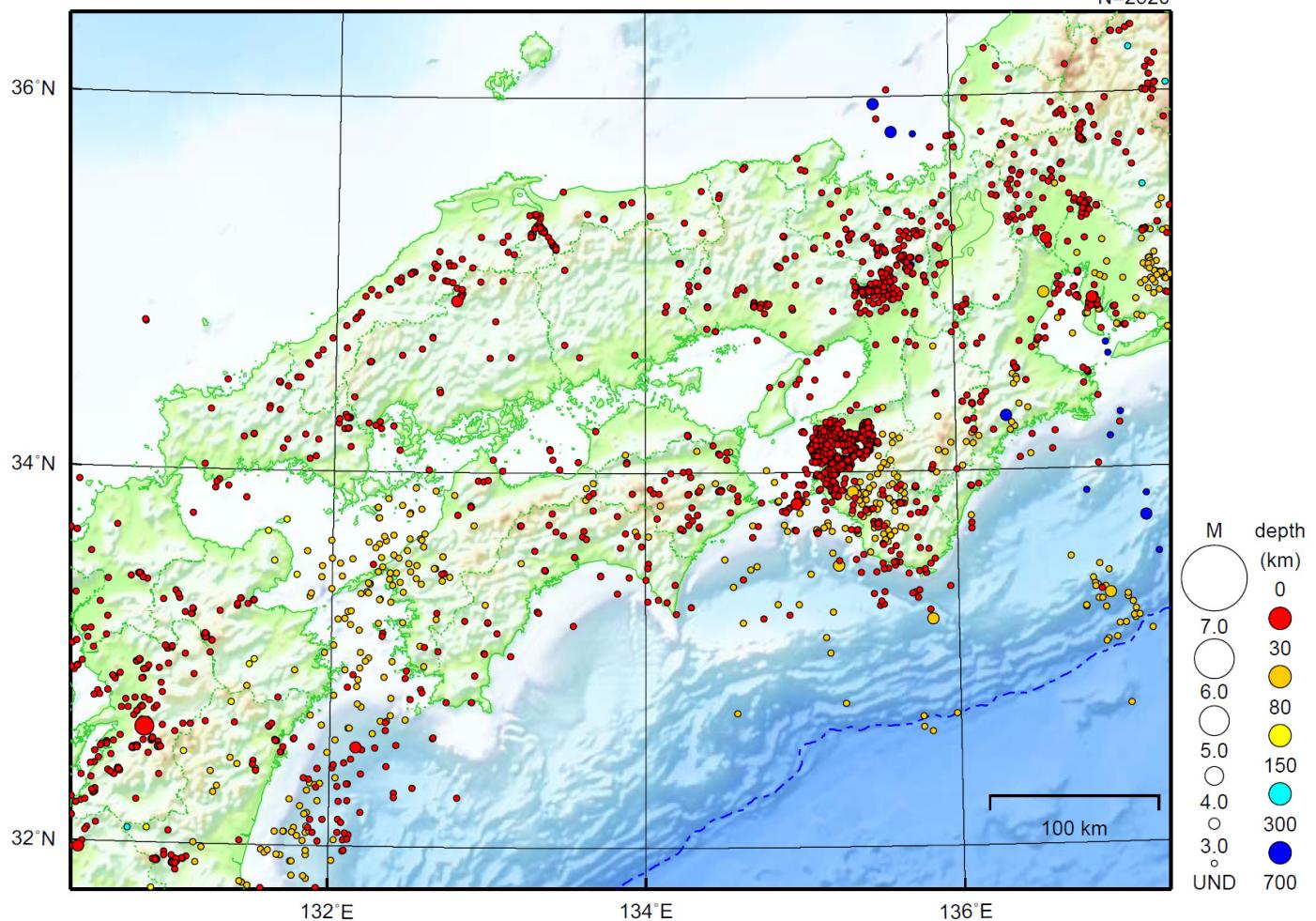
- 1998年1月～2000年1月のデータから平均速度および年周変化を推定して平均的な地殻変動を求め、それを元の時系列データから除去している。
- 2003年以降の上下成分は年周補正を行っていない。
- 2004年9月5日に発生した紀伊半島南東沖の地震による地殻変動の影響は取り除いている。
- 2004年10月23日に発生した新潟県中越地震による地殻変動の影響は取り除いている。
- 2004年9月から2005年初頭までは、2004年9月5日に発生した紀伊半島南東沖の地震の余効変動の影響が含まれていると考えられる。



近畿・中国・四国地方

2007/03/01 00:00 ~ 2007/03/31 24:00

N=2520



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

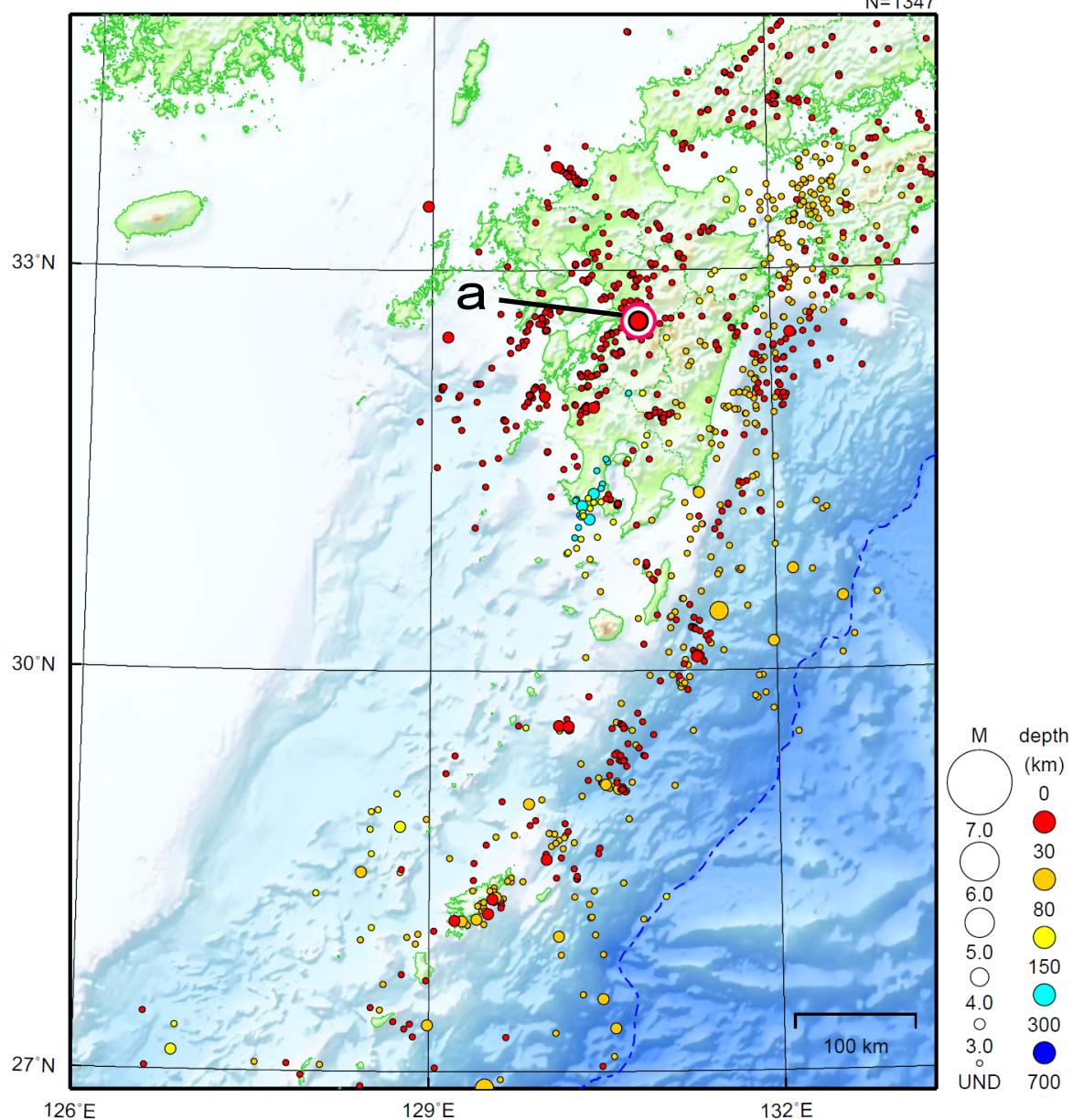
特に目立った活動はなかった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

九州地方

2007/03/01 00:00 ~ 2007/03/31 24:00

N=1347

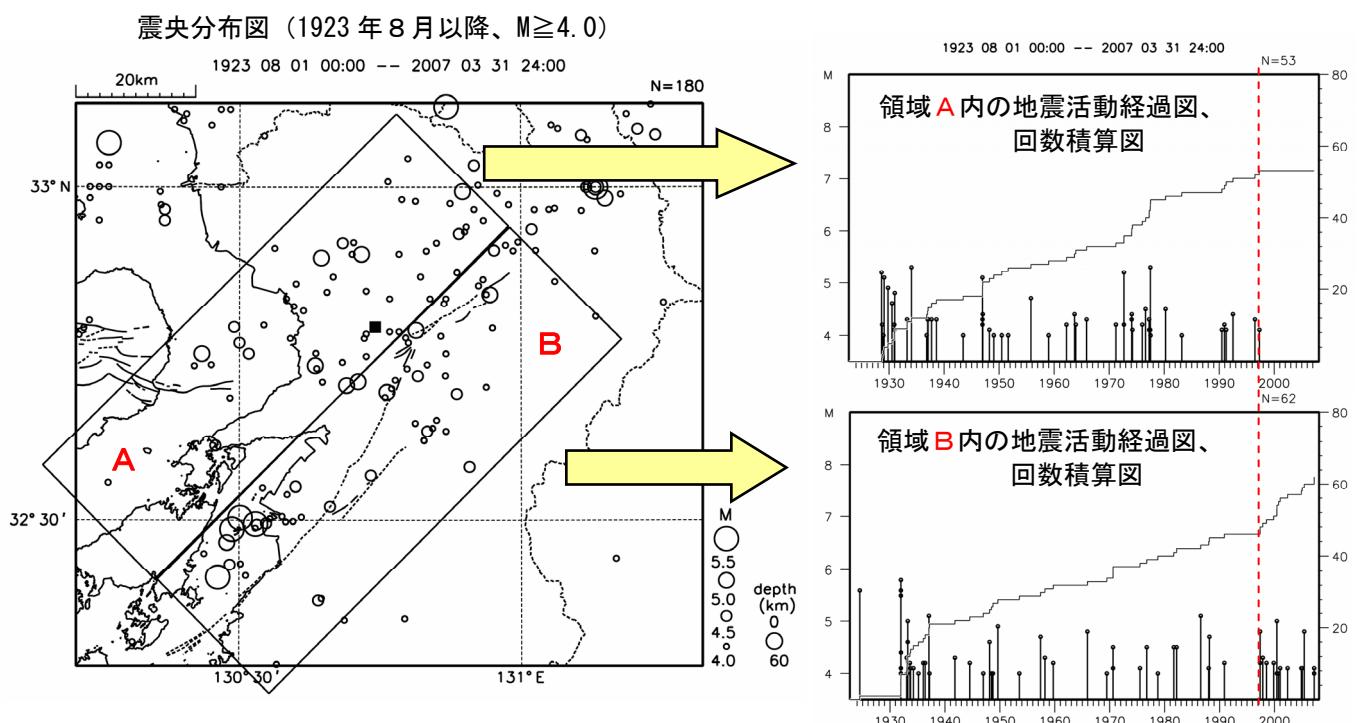
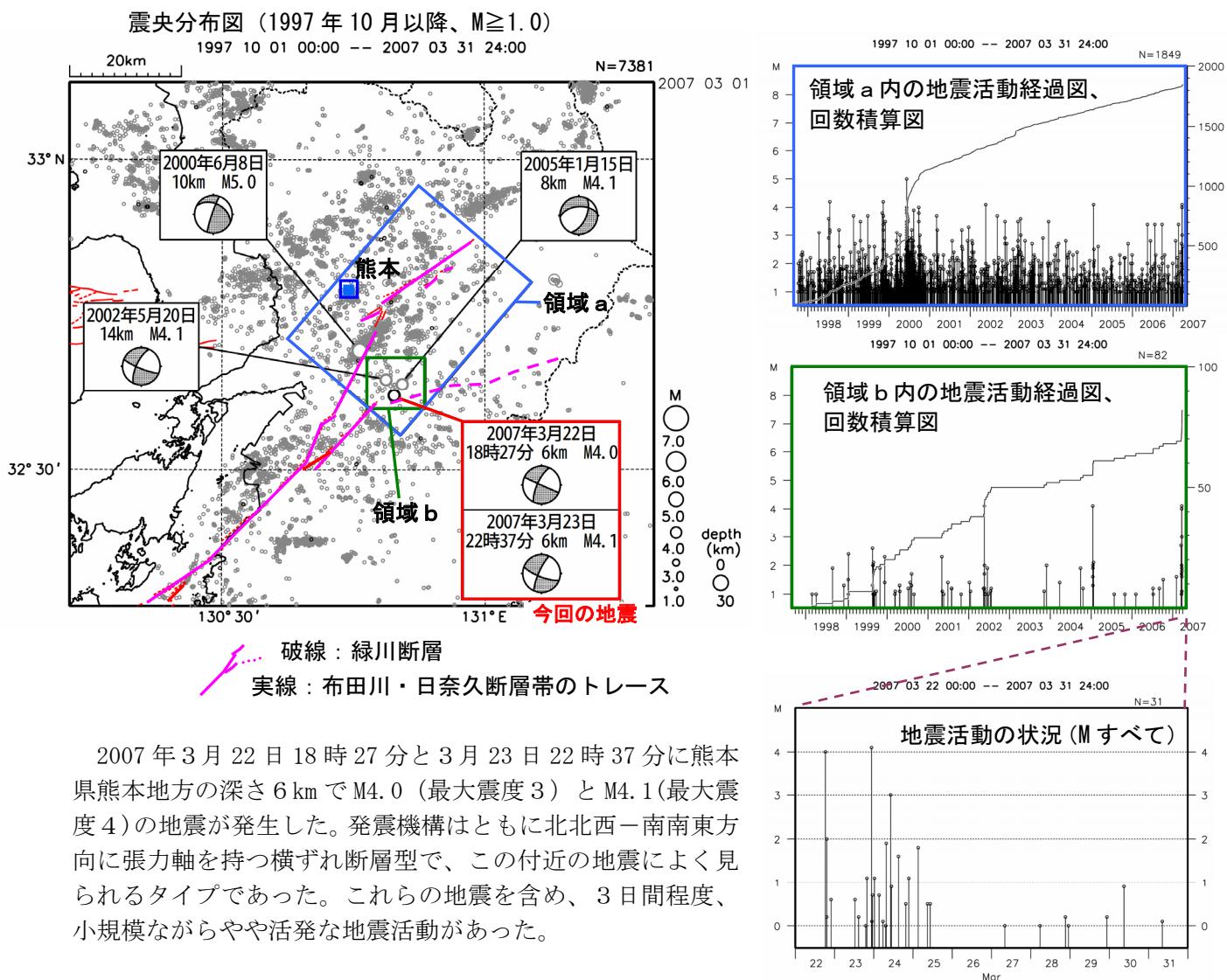


地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

a) 熊本県熊本地方で3月22日にM4.0（最大震度3）、3月23日にM4.1（最大震度4）の地震があった。

[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

3月22、23日 熊本県熊本地方の地震

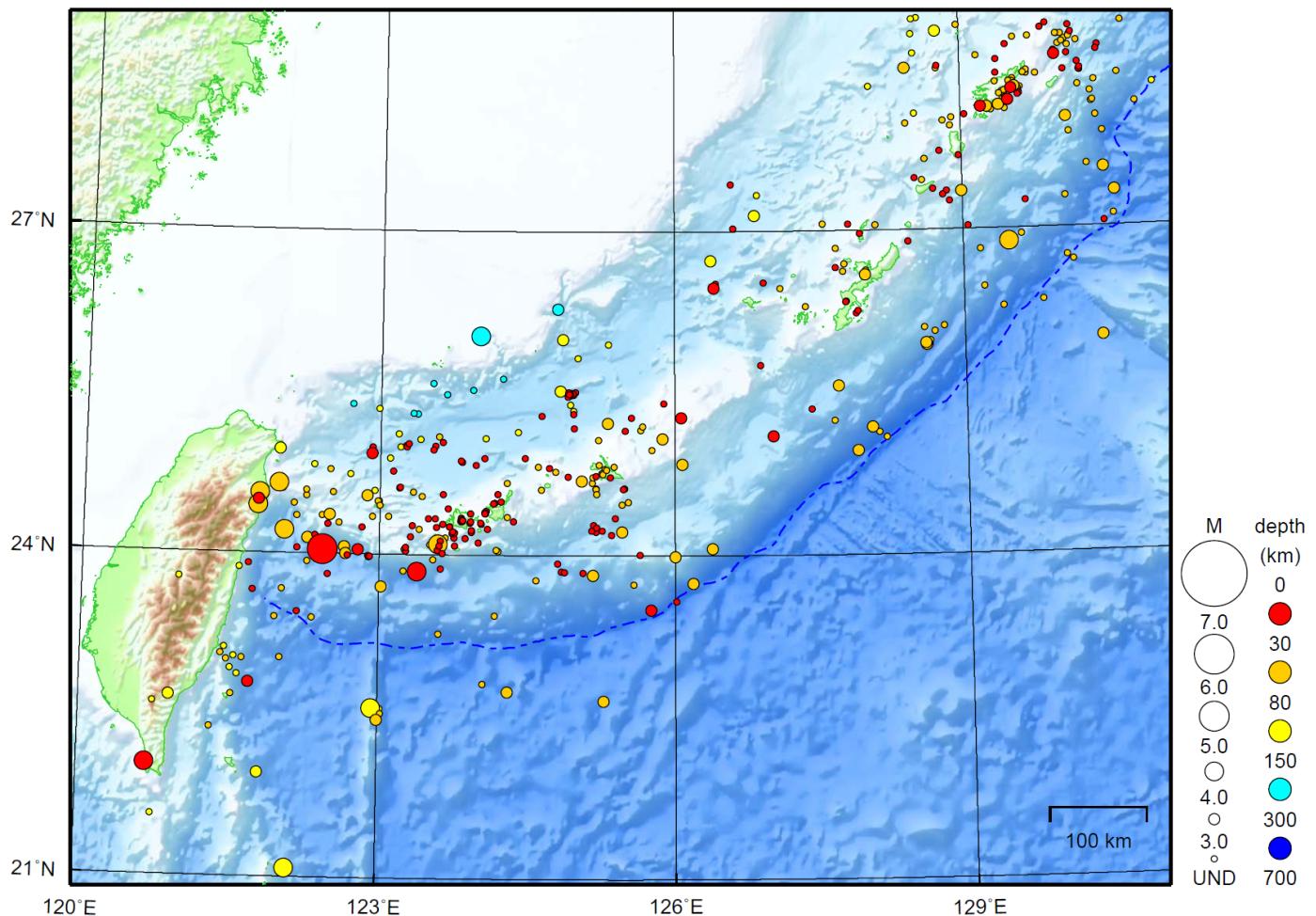


1923年8月以降の布田川・日奈久断層帯に沿った領域（B）と北側に隣接する領域（A）の活動をみると、1997年頃から非常に対照的に推移している。

沖縄地方

2007/03/01 00:00 ~ 2007/03/31 24:00

N=425



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

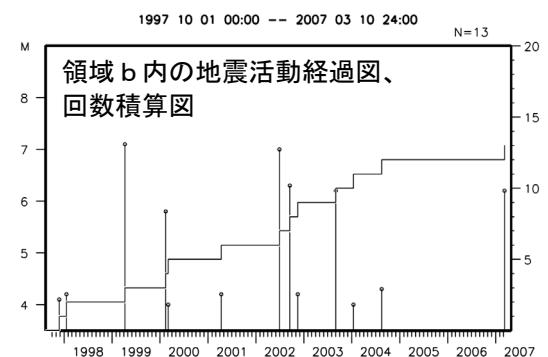
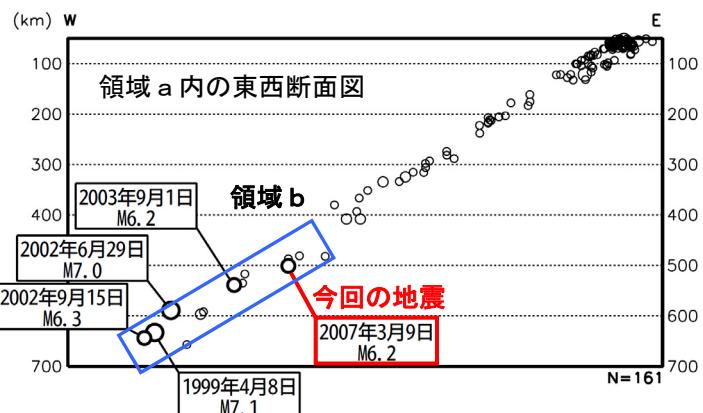
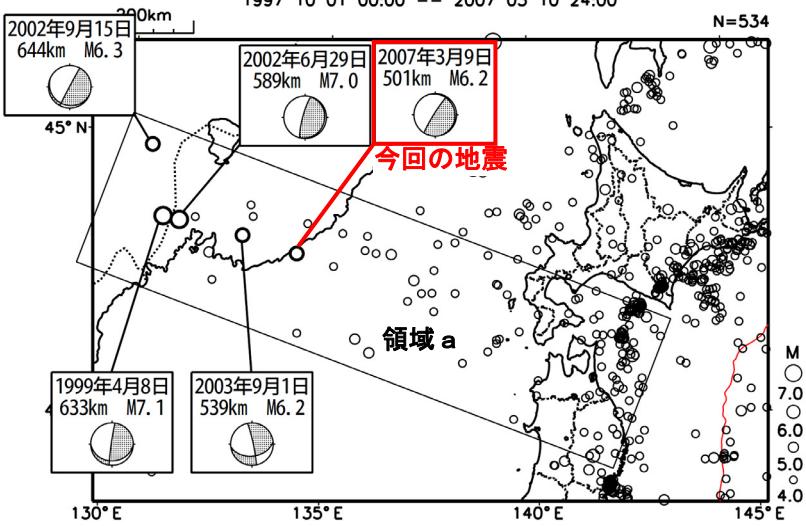
[上述の地震はM6.0以上、陸域でM4.0以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上のいずれかに該当する地震。]

3月9日 日本海北部の地震

A 震央分布図 (1997年10月以降、M \geq 4.0、50km以深)

[吹き出し中の発震機構解はすべてCMT解]

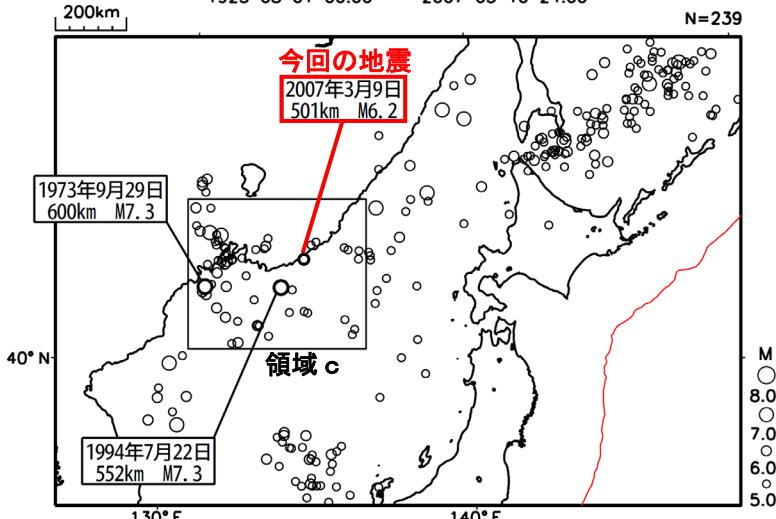
1997 10 01 00:00 -- 2007 03 10 24:00



2007年3月9日12時22分に日本海北部の深さ501kmでM6.2(最大震度2)の地震が発生した。発震機構はこの付近でよく見られる太平洋プレートの沈み込む方向に圧力軸を持つ型で、太平洋プレートの内部で発生した地震と考えられる。太平洋プレートの深部で発生した地震では、しばしば日本列島の太平洋側で震度が観測されることがあり、この地震でも同様な傾向が見られた。(A)

B 震央分布図 (1923年8月以降、M \geq 5.0、300km以深)

1923 08 01 00:00 -- 2007 03 10 24:00



1923年8月以降、領域cでは、M5.0を超える地震がたびたび発生しており、最大規模は1973年、1994年に発生したM7.3の地震である。(B)

